213-499463

新女界

明治四十四年一月一日發行

第參卷第壹號要目

死ぬ迄働き續ける元氣　安井哲子
現代婦人の缺陷　海老名彈正
現代女學生の惡傾向　小此木松子
禮儀の根本觀念　三谷民子
亞米利加だより　海老名一雄
來書　德富健次郎
子供の友の心配　倉橋惣三
精神美と肉體美　海老名みや子
木枯の朝　野口せい子
所感二則　安井哲子

東京　新人社　發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第參卷第壹號

●ヴエニスの貴婦人(口繪)
●死ぬ迄働き續ける元氣　安井哲子

講壇

●現代婦人の缺陷　海老名彈正

想苑

●現代女學生の惡傾向　小此木松子
●禮儀の根本觀念　三谷民子
●亞米利加だより　海老名一雄
●對話七ツの德　上村邦良
●木枯の朝　野口精子
●湯臺叢話　谷津直秀
●來書　德富健次郎
●子供の考　なでしこ

家庭

●子供の友の心配　倉橋惣三
●精神美と肉體美　海老名みや子
●涓滴錄　一色醒川
●鰕の話　谷津直秀
●留守宅お見舞の記　楠男生
●摘草集(新聞雜誌瞥見)
●時事其折々
▲英國の政局▲淸國婦人の活動▲閑院宮兩殿下の琉球御成▲教界物故の諸名士

隨感

●所感二則　安井哲子
●贈答の心得　海老名みや子
●雪路の灯　楠男生
●編輯だより

恭賀新年

交際場裡に文明の美花を開かるゝ紳士も奥さんも孃さんも香り深き千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價
七十錢
卅五錢
廿五錢
十七錢

試用見本郵券代用あれ

スワン石鹸

純白で湯水に浮き價安くて品の善いスワン石鹸は至る處の小間物、化粧品藥舗にあり　定價廿二錢

スワン石鹸日本一手販賣
東京馬喰町四丁目
山岸三之助
電話浪花三七九三
振替口座一九九七八

◎新年附録 日本名所 家族旅行 雙六◎

婦人世界

正月一日發行 六卷第壹號 一冊拾五錢 郵税一錢五厘 半年分郵税共一圓五錢 一年分同二圓五錢

◎人情論……村井弦齋

(實用手輕な弦齋夫人料理談 本號には餅の料理)

◎身に泌みて忘れ難き母の一言……(矢島、棚橋、跡見、三輪田、山脇各女史)

◎五十年前の私の花嫁姿……池田松子

◎未婚の男女は如何なる配偶を選ぶか……嘉悦孝子

◎正月の子供の遊びと食物の注意……加藤博士

常盤御前論

浮田傳士 三輪田元道 鳩山春子 鈴木光愛 箕作博士 小林盈 吉田博士 杉浦重剛 安部磯雄 宮田脩 矢島楫子 西田敬正 その他

◎北白川宮より御降嫁ありたる有馬伯世嗣夫人の平生……一記者

◎おかめとお多福の先祖は誰れか……武田豊四郎

◎米國から日本へ新婚旅行……森久保喜太郎

◎嫁入りの當時一番に困つた事……(丸山夫人、天野夫人、金子貞子)

(下田歌子女史、毎號本誌に執筆さる)

◎女學校卒業生は實際役に立たぬか……下田歌子

東京京橋南紺屋町十二番地 實業之日本社 (振替貯金口座三二六番)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀

本年中も倍舊御愛

昨年中新刊及

- ラルネデ著 **默示錄講解** 價一圓卅錢 郵稅十二錢
- 竹内甚吉遺著 **商人の宗教** 定價廿五錢 郵稅六錢
- 藤川淡水著 **バイブル御伽噺** 定價五十錢 郵稅六錢
- 日高善一編 **渡邊松子** 定價廿五錢 郵稅四錢
- 松本雲舟譯 小說 **アダム、ビイド** 定價五十錢 郵稅六錢
- 佐野天聲作 脚本 **二宮尊德** 定價二十錢 郵稅四錢
- 赤司繁太郎著 **靈乎肉乎** 定價四十錢 郵稅六錢
- 波多野精一著 **スピノザ研究** 定價七十錢 郵稅八錢
- 尾島眞治著 **讃美歌說明** 定價十五錢 郵稅四錢
- 内崎作三郎著 **人生と文學** 定價八十錢 郵稅六錢
- 坂本箕山著 **高山彦九郎** 定價七十錢 郵稅八錢
- 矢島宇吉著 **純福音一斑** 定價四十錢 郵稅六錢
- 大宮季貞譯 **教授の秘訣** 定價卅錢 郵稅六錢

- 加藤直士譯 **イエスの倫理** 定價一圓 郵稅八錢
- 永島重忠著 **小信微感** 定價十錢 郵稅二錢
- 倉橋惣三著 **な、し草** 定價六錢 郵稅二錢
- 迫川生著 **政ちゃん** 定價二十錢 郵稅四錢
- 原忠美遺著 **基督の面影** 定價三十錢 郵稅六錢
- 松村松年著 **甘蔗害虫篇** 定價五圓 郵稅十二錢
- 三宅内田合譯 ふをるそむ氏 **昆虫學** 定價四圓 郵稅十六錢
- 村田平三郎著 **圖說傳道骨子** 定價五錢 郵稅二錢
- 村田勤著 **ナイチンゲール** 定價五十錢 郵稅六錢
- 畔上賢造譯 **人間上進論** 定價五十錢 郵稅六錢
- 成瀬仁藏著 英文 **澤山保羅** 定價六十錢 郵稅八錢
- 吹田鷹風譯 **マリア、マグダレナ** 定價六十錢 郵稅八錢
- 留岡幸助著 **明暗劄記** 定價五十錢 郵稅十二錢

發兌元 東京銀座三 振五五 **警醒社**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新年

顧御引立奉希上候

重版書一覽

信仰餘賦 **野の聲** 葛巻星淵著 定價廿五錢 郵税四錢

心懐語 西川光次郎著 定價五十錢 郵税六錢

社會と人道 留岡幸助著 定價二圓 郵税十二錢

ノイマン原 栗原基譯 **耶蘇傳** 定價八十錢 郵税八錢

基督教哲學一般 武本喜代藏著 定價五十錢 郵税六錢

犬の話 大宮季貞編 定價二十錢 郵税四錢

澤山保羅傳 武本喜代藏著 定價六十五錢 郵税六錢

時代と教育 三澤糾著 定價九十錢 郵税八錢

樅山のクリスマス 毛利董譯 定價二十錢 郵税四錢

日曜學校教案 加藤直士編 定價二十錢 郵税四錢

聖書基督傳 大宮季貞編 定價七十五錢 郵税八錢

大和民族考 福井永頼著 定價三十錢 郵税四錢

以上新刊

歐州近世史論 横井時雄著 定價二圓 郵税十二錢

ロバルトソンの美訓 加藤直士譯 定價十八錢 郵税四錢

寄生木 徳富健次郎著 上製二圓 價一圓五十錢 郵税十二錢

西洋哲學史 大西祝著 上一圓六十錢 下二圓 郵税各十二錢

基督信徒の慰め 内村鑑三著 定價三十錢 郵税六錢

求道者に與ふる書 元田作之進著 定價十錢 郵税二錢

伏屋の曙 坐古愛子著 上編四十錢 後編五十錢 郵税六錢

宗教改革史 村田勤著 定價二圓 郵税十二錢

信仰餘賦 **小星** 葛巻星淵著 定價二十錢 郵税四錢

書店　本郷春木町二丁目廿二　同支店

面目を一新せる新年號

婦女界

理想の花嫁 花婿（夫婦論其一）　羽仁もと子

▲名士の母堂を集めたる老人會（小崎千代子夫人）

▲結婚以來廿五年間の私の日記（井口工學博士夫人）

▲如何なるをか眞の淑女といふ（女子學院教授三谷民子）

▲歐米を漫遊して感じた事共（男爵夫人三井苞子）

▲年々の嘉例となれる我家の歌留多會（平井鐵道院副總裁夫人）

◉若き主婦としての感想（名取夫人）
◉新年は一家を擧て大磯（山脇夫人）
◉朝鮮女學校學監尹夫人訪問記
◉櫻山別荘に德富淇水翁を訪ふ
◉教談北政所とチスレリー夫人
◉簡單にして恰好よき子供前掛
◉フライを美味しく拵へる法
◉名士の書かれたる日記色々
◉お正月門松床飾り……（小笠原淸務）
◉新年と文藝……（河井醉茗）
◉（英詩）クリスマスの歌（松本𠮷舟）
◉若き婦人のために……（下田次郎）
◉ヴァイオリンを習ふ方々へ（賴母木夫人）

▲女

雪嶺博士の婦人觀を見よ
新年號より毎號連載す

文學博士　三宅雄二郎

▲家庭に余の擔當せる仕事（法學博士浮田和民）

▲私はドウして千里眼となりました（千里眼婦人長尾郁子）

▲家を上手に持つ工夫（羽仁もと子）

▲畵家の眼に映じた東西婦人服裝（湯淺一郎）

▲愚痴をこぼさずに歌を詠め（阿部泰藏夫人優子）

新年號の口繪

▲初しらべ（石川寅治氏筆彩色）

◉閑院宮三姫宮殿下御染筆の書畫◉三井男爵夫人と同令孃●書齋に於ける浮田博士◉德富一敬翁と新婚時代の德富蘆花氏夫妻◉名士母堂の老人會◉阿部泰藏氏の家庭◎平井鐵道院副總裁の家庭◉西本願寺兩裏方と毛利公母堂◉名士の子供……

▲寒月照梅花（藤井大口兩氏合作石版畫）

▲新案 結婚双六（新年附錄）

趣向嶄新面白きことと無類繪畫は桐谷洗鱗（横二尺六寸竪一尺八寸の採色石版畫）

一冊金十五錢新年號に限り（郵税二錢）　東京　同文館　神田　六冊金九十錢 十二冊金一圓七十五錢（前金）

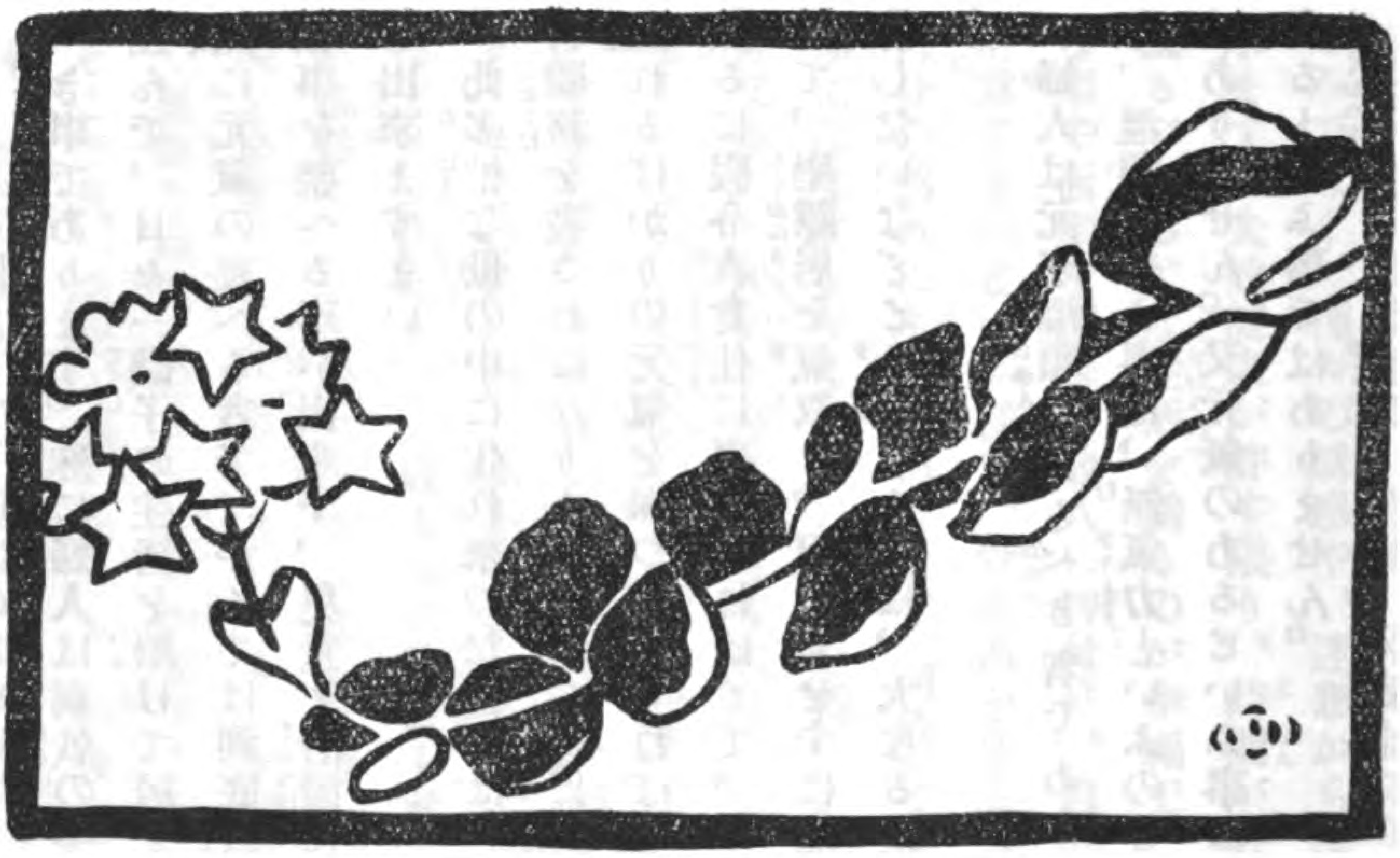
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



第参卷第壹號

死ぬまで働き續くる元氣

安井哲

「もう幾つ寢るとお正月」と待ちに待つた新年も終に來ました。

毬やら凧やら羽根突きやらで、夢中になつて遊んで居る無邪氣な兒童は勿論、三元日のお屠蘇やお雜煮に、暫此世の苦勞を忘れて暢氣に笑ふ成人までも、誠に愉快氣に見ゑます、併一年經てば、幼稚園の幼兒は小學校の兒童となり、小學校の兒童は女學校の生徒となる樣に、少年は青年に、青年は壯年に、壯年は次第に老年の時期に移り行くのであります。

年を重ねて喜ぶ者は兒童のみで、青年壯年と次第に元氣が衰へて來、終には五十歳に足らずして、既に若隱居の心狀となり、死期の近づくのを悲しむ者もあります。人間は長く兒童で居る程幸福で、少年期や青年期頃から、既に老成人の樣な考を起したり、無氣力の態度を呈するのは、當人の爲めは勿論、か

ゝる人々を國民とする國家の爲めにも、誠に悲しむべき事であります。殊に婦人は刺戟の少ない世界に住んで、日々一調子の生活を續けて居ますから、自然に元氣の衰へる者で、かくては到底敏捷に複雜な家事を整へる事が出來ず、兒童を活潑に教育する事も出來ますまい。

此多忙な世の中に生れ來つた吾々は、一生懸命に吾職務を盡さねばなりませんから、常に健康を保ち、溢れるばかりの元氣を保つて居らねばなりません。然るに假令衣食住に事缺かねばとて、年壯なる身を以て、樂隱居を氣取り、何事もせずに唯ぶら々々と暮したいなどと希望するのは、大なる誤りであります。

婦人は元來溫順であるべき者でありますけれども、溫順といふ事は、無氣力といふのと同一意味ではありません。又元氣のあるといふ事は、男性的であるといふ事ではありません。

活氣は仕事を愉快にさせ、又敏捷にさせるのに缺くべからざる要素でありまして、之れを得るには、第一身體が健康でなければならず、第二心が平和でなければならず、第三常に希望を有つて居らねばならず、第四職務に熱心でなければなりません。身體の虛弱な人は活氣に乏しく、心に煩悶を有する人は元氣がありません。又此世の中に淸く樂しく暮したいと心懸くる人、一生懸命に勉强して、いつか研究の目的を達したいと希望する人などは、日々爲す細小の仕事にも亦大きな意味がある事を覺つて、樂しく働きを繼續致します。次には又家事でも公務でも、興味を以て熱心に從事しますと、不知不識元氣が加はる者であります。

所謂「樂な生活」といふのは、其實幸福な者ではありません。働く事の厭いな人でも、長命するのは好きでありませう。そこで、長命には活動が缺くべからざる者で、日々火鉢の前に座つて居ては長壽は保てません。此意味から、人は何か仕事を有つ事が肝心で、假令婢僕を召使つても、成るべく自分で仕事

をし、自然に運動する方が、却つて健康を保ち得るのみでなく、種々の誘惑や、迷想から遠かる事が出來ます。夫故健康が許す限り、時間が許す限りは、成るべく多忙な生活を爲るのが幸福で、何でも困難な事や面倒な事は、他人に押付け、自分は氣樂に何も爲すまいといふ様な、骨惜みをする人は、却つて自分の爲めに不幸であります。何故ならば甲の人は、多忙な生活をする爲めに元氣を得、心の滿足を得、且又他人へ親切を致されますに反し、乙は不活潑な、氣力のない、且又自利の生活を致すからであります。

　近來は概して青年の元氣が衰へた様に見受けますが、女子は殊に餘り刺戟を加へると、神經衰弱を起すといふ心配から、成るべく勉强もせず、苦しい事は取除くといふ様になつてまゐりました結果一旦學校を卒業して新生活に入つても、矢張習慣上成るべく氣樂な境遇に居りたいと希望する様になります。そこで先づ襷掛で働くよりも、召使の二三人もある家に嫁したいと望み、苦しい仕事に從事するよりも、成るべく容易い事を爲したいと希ふ様になります。夫故に勤勉眞面目な家風を作る事が出來ず、又職務に忠實な人を得る事も出來ません。かゝる種類の人々は、年と共に貴き經驗や智識を増して、壯年老年に至つては、大に世の爲めに盡し得る代りに、後進者から厭はるゝ様になるのであります。價少き物質上の快樂を座ながら得やうと試みる様な人々は、年と共に空しく老を待つのみで、何等の進步も發展も出來ぬのみか、假令百歳の齢を重ねても、何等國家に報ゆる處もありますまい。國土のみ膨脹して、國民の元氣が衰へては、眞に隆盛な國家を作る事は出來ません。新年を迎へて、お互に一ケ年年老いた吾々は、富めると貧しきとを論ぜず、又少きと老いたるとを問はず、時間と健康の許す限り能く動いて、自分の爲め、家族の爲め、又は國家の爲めに、有益な生活をなし得る様に心懸け、死ぬまで働き續ける覺悟を有ちたい者であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

現代婦人の缺陷

海老名彈正

昔豫言者イザヤは時の婦人が其努むる所は唯是れ虛飾虛榮、而して項をのばしてあるき眼にて媚をおくり徐々としてあゆみゆく多くの婦人を見て、誠に堪へ難きの憂憤を以て是に警告し、その門はなげきかなしみ、シオンは荒癈れて地にすはらん、と言つて居る。固より一代の女子が凡て驕奢を極め虛榮に馳せ虛飾を事とする様に成れば、大底其民族の將來は知る可きのみである。イザヤは之を戒めたのである。其後約八百年を經て後世界が羅馬帝國と成つた時にも又ペテロが是と稍同じ様な教訓を遺して居る。

若し之を他の一面から觀るど餘りに清教徒主義に走せ過ぎて居る傾が無いではない。併しペテロは曰つて居る、たゞ心の内の隱たる人すなはち壞ることさ

なき柔和恬靜なる靈を以て裝飾とすべし、と喝破して居るのである。單に上邊の飾から變して心の中に隱れたる人の飾りに就て注意を促がしてある。而して千八百年を過ぎたる今日我が日本に於て復再びするの必要を痛切に感ずる。

△氣品なき現代の婦人

現代の女子は之を昔の女子に比較すれば、殆ど完全なる敎育を受け得る機會を有するといふ一點に於てすらも非常なる幸福と謂はねばならぬ。吾々の祖先は實に斯る事を夢想する事だにも出來なかつた所である。尤も日本に於ても或る時代には特に相當の敎育を受け、殊に其才能見識に於て男子を後に瞠着たらしめた例が無いではない、併し現代の如きとは之を歷史に見るとは出來ない、一般より推せば未だ女子の敎育は男子に比すべからずと雖も、世の文明と共に女子も其學問上に於ても男子に讓らぬといふ意氣込が見える。故に男子の帝國大學に對して彼の女子大學校も出來て居る次第である。寔に今日女子の高等敎育といふことは日に〳〵彌盛に成つて來る。爰には何等かの結果が表はれねばならぬ譯である。一體高等敎育を受けたといふ程の人には何處かに其面丰が變つて來る筈である、又一個の見識を備へ相當の思慮分別を有するに至ると其座臥進退にも態度を異にするものである。然るに今日吾人が市街を往き多くの婦人を見るに僅かに高等女學校以上の敎育を受けた婦人と見らるゝ人にして、敎育なき婦人と殆ど擇ぶ所なき人が大多數である。此の悲しむべき現象は果たして何に起因して居るのであらうか。長い間苦心した敎育の光が割合に輝やいて外に現はれないのは何故であらうか。彼等は其敎育より得たる知識を單に外なる人、肉體に見ゆる外なる人の虛飾や慾望の爲めに惜氣もなく中なる人の力を以て用ゐて居るからである。故に氣品が無い、如何に藝能に秀でゝ居ても卑しく見えるのである。英語で言ふ知的生活でない、內面の空虛なる生活をして

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

居る證據である。一般に今日の敎育は何か爲にする所が有つて受けるので其品格德性を養ふ爲めではない、故に親は何か目指す所があつて其子に敎育を受けしめ、又其子は直接物質的立身出世を目的にして勉强をする。是が女子になると親は其娘を立派な家に嫁がしめんが爲めに學校に入れる、娘も亦其氣で勉强する。親は野心と慾望とを以て之を敎育し子は又虛榮と虛飾とに支配せられる。今日相當の身分有る人にして娘を學校に入れるのは、嫁入の手段と眞に考へて居るのみならず、之を公言して憚らぬ。世人も決して之を卑しい間違つた事とは思つて居らない。故に學校に於て受けた敎育其ものには何等の價値もなく、唯外觀を飾る一手段に過ぎぬ。於是敎育と品格とに何等の關係がなくなる。所謂己が爲めにする學問に非ず皆是れ人の爲めにする學問である。己の爲めにする學問とは自己の人格を作り上げ其德性を磨く事である。斯る精神を以て勉强する者は極めて罕である。知識を覓むる所以は外觀の爲めにして內實の生活は決して顧る所でない。餘りに外に走りて外觀を競ひ、實に詰らぬことに心を碎き焦りに焦つて虛飾を求める。故に一旦之が得られない曉に至ると煩悶懊惱する、そして終にヒステリーに罹る是が順序である。

△外觀を飾つた婦人の末路

上述の結果遂に其反動として一種の變調を帶びて來る。卽ち女子の座禪である。或は其數は少々であると思ふが見遁すことは出來ぬ。婦人と雖も座禪によりて或は修養し得る所が有るかも知れぬ、併し座禪に由りて女子は其美德を得ざるのみならず其在來有する美點も失ふに至る。昔より佛敎に於ては成佛するに女子其者、女子は女子として其儘成佛することは出來ぬ、必ず一度男性に變性せねば成佛出來ぬものと成つて居る、故に座禪する女子には何となく男子の風調を帶んで來る。そして女子として實に親しむべく憐むべき點が缺けて來る。玆に吾人は又更ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に驚ろくべき事を見る。今日有らゆる社界に於て元老或は先輩と立てられ而して猶は天下國家を論ずる知名の人の家庭の寫眞を見ると實に情ない狀態が如實に暴露されてあるを見る。夫は老て益々壯である、併し其夫人は益々衰へ其憔悴恰も死者の如く些の活氣をも認むることは出來ぬ。是は何故であらうか。是には大に原因がある。男子は老ゆるも政治を論じ又思想界の一角を代表して居る、其青年時代より健鬪し來つた元氣を其儘に繼續して居る。素より彼等には青年時代より外觀を飾る爲めに動いた所は少しもない、所謂衣は肝に到り袖は腕に到る底の人々である。其專ら働らかせたものは彼等の知能であつて其志は天下國家に在る、而して其憂國の精神は七十に成るも八十に成るも減ずる所はない。然るに其夫人に在つては如何。固より青年英雄の心を牽いた婦人は多く美人であつたに相違ない、確かに其妙齡時代に於ては時の美を盡したものである。併し乍ら其人四十を越え五十に至り尚ほ其妙齡の美を留めむと欲する乎。已に外觀を飾るも詮なき事である。而も往々にして此る人を見るのである。吾々に取つては年老いたる婦人の紅白粉程氣の毒に思ふことはないのである、如何にも馬鹿らしく、如何にも下卑に見ゆそして何處迄下劣なる根性であるかと其人の心の底まで見透かされるのである、外の飾は外なる人と共に之を施すべきものである。既に年老いて施すに由なし、曾ては如何に美なりしと雖も今や既になし。若き美人は若き英雄に適はしくあつた、併し其若き美人は最早老て益々壯なる老英雄に伴はざる一老衰夫人として纔に其餘生を延べて居る。憐むべき事の限りである。

是が則ち外觀のみを飾つた婦人の末路である。殷鑑遠からず吾人の眼前に在る、而も尚ほ今日の女子は見る所がない。今にして改めずんば同じ運命の末路に到り、老いても心なき外觀に浮身を窶さねばならぬ時が來ることは明かである。誠に淺墓にして沙汰の限りである。畢竟するに斯る婦人には信仰さい

ふ所が微塵もないからのことである。今日思想界に荒む無神の思想、無信仰の潮流が女子の中にも亦流れて居る。實に信仰なき狀態は婦人の最大の危機である。

△神々しき心情の光彩

吾人は信念に就て何處までも主張せねばならぬ。昔の女子で相當の士族の中に育つた者には一種の强い信念が有つた。今日から之を觀ると或は淺薄のものであつたかも知れぬ、是は免かれぬ所である。併し誠心を以て仕へ、敬虔なる心情を以て一身を委ねた。妻としては其夫の運命を任せ、母としては其子女の運命を任せて大に據るべき所以のものを有してゐた。故に彼等には何處となしに其中に一種の强いものを握つてゐた。斯る人は年を經ると共に漸々一種の美の光彩が添はる。元來人間には年齡時代を異にすると共に夫々の美の色調を異にするものである。殊に女子に於ては所謂妙齡の時期娘盛の美と四十を過ぎ五十、六十に至りて初めて添はる美との間には大なる相違がある。後に來る美は精神的美で漸やく肉體の美が失せて彌々來るべき心情の美である。斯る美の增すと共に一面重々しくなり一種尊敬の念が湧いて來る、神々しい美の光彩が輝く。是は二十歲前後の人には見ることは出來ない。世に謂ふ糟糠の妻として眞に其夫を扶けて絕えず精神を鼓舞せしめたる夫人が已に四十を越す程にも成ると、其處に一種犯すべからざる尊嚴を帶びて來る、更らに五十に至れば何方からするも犯すべからざる儼然たる母にして、相當なる學識を備へたる息子も其母の前には頭を扛げることは出來ぬ。內なる人の美は益々加はる。爰に信念の光輝が高く淸く尊とく四圍を照らして來る。故に尊敬の念が其人に對して自づと湧いて來る樣に成る。併し多數の人には此の點が了解せられて居らぬ。唯肉體美の消失するを愛しみ何とかして取り止めんとて見苦るしい眞似もせねばならぬ事に成る。思はざるも亦甚だしい。途上の婦人でも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其眼に其サモシイ根性が見透かされる。孟子も其瞳子を見れば人焉ぞ廋さん哉と言つて居る。

△權威ある婦人に對する快感

されば其見識に於て又其貞操の上に於て何等惑ふ所なく、一面に於ては飽くまで嚴正にして婬はしき言を發せざらしめ、他面に於ては世にも慈愛に滿てる柔和しき婦人にして同時に良心の命令には何處までも從ふといふ人たるには、基督に就て學ばねばならぬ。基督の性格の中には婦德を完全に顯はして居給ふ。其中に働ける力は壯烈と謂はんよりも寧ろ熱誠と言ふべきである。壯烈若しくは熱烈といふ所には道德的意味が極めて尠ない。現代人は熱誠至誠といふべき所に常に熱烈壯烈なる文字を使用する、此處にも亦現代の缺點の一が暴露されてある。婦人にも矢張り此の至誠が甚だ乏しい、故に其良心の聲は極めて微かである。今日に於ても尙ほ勝手なる男は無理な要求を出して妻君を窘める。妻が夫に從ふは當然である。併し良心にまで背いて尙ほ之に從ふ要はない。若し夫れ良心の命じ許す所は如何なる事あるとも從ふといふ權威ある婦人に對しては男子も亦實に心地よいのである。爰には深い信念が働らいて居る、斯る點が現代の女子に缺けて居る。昔の女子は家と祖先といふ點から育てられた。現代は根本から行かなければならぬ、良心から出發せねばならぬ。中なる人の高き人格を作るとは強ち外觀を棄てる意味ではない。併し衷なる人が整へば自づと外なる人は是に伴つて修まつて來る。誠に神の女として適はしき品格を保つには尠くとも相當の外貌の注意を要すのである。實に現代の婦人には神の女の氣品が乏しい。此の缺陷を補ふ爲めには必ず基督に賴らねばならぬ。幸にして玆に至らば今後婦人の價値が今に幾倍の光彩を添ふる所を豫め知ることが出來る。是は單に婦人其人の爲のみならず日本將來の最大の基礎と成るべき所である、而して又神の國の建設に與かつて大に力あるものである。努めよや!

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

想苑

吾國女學生の惡傾向

小此木まつ子

此女學生と云ふ言葉は、歐米では日本程多く使はれて居らず、其含蓄する意味もこちらのとは幾分違ふ樣に思ひます。此言葉は私共がまだ田舍の幼稚園に通つて居る頃に出來たものらしく、東京から休暇で歸つて來る女學生と云ふものを、えらい人と思つて羨むんだ事を今も記憶して居ります。現時の日本では、青年の女子で物學びに通つて居る者は、悉く女學生といふ名稱の下に總括されて、殆ど一別族なるかの如く世間からも見られ、又御自分達もそれで滿足して居られるのでないかと疑はれる節もあります。斯く世間一般の女子と云ふ者から懸け離れて、女學生として分立して居る所に、少からぬ弊害があるのではないかと考へます。

一體人に自信あり自覺あると云ふ事は貴ぶ可き事實でありますが、各自の眼のつけ所の高低遠近によつて、人格の上に大きな差異を生じます。今の若い女子の方々が自分は文字あり智識ある學生だと自重して居られるのは、云ふ迄もなく立派な事で、不幸にして教育を受けなかつた人と異つて居られるのは、さうあるべき事でせう。然し學生であるといふ事が目的ではないので、それは唯、人格を高め智識を擴めるが爲めに取つた方法に過ぎませぬ。要は完

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全なる婦人になるにあるので、女學生であらふが、工女であらふが、下女であらふが、各々其境遇の許す範圍內で、其眞面目な眼のあいた女子になる事に心掛けて居らる可き筈です。幸にして餘裕があり、學問を專一にして募す事が出來る身分の者は、一倍此ウーマンフードに達する向上心に燃えて居らねばならぬ筈です。

所が今の世を見渡しますと、所謂女學生と云ふ人々には、女を忘れ、家庭を忘れ、世に愛らしき子供ある事を忘れて、蕪雜なる自己中心の生涯を營んで居られる方が少からぬ様に思はれます。さらぬだに一定の課業を持つて居るものは、他を顧るの暇なしと云つて、利己に陷り易く、他からも學問に忙しいからと云つて許す傾がある爲に、甚だしい人にあつては、自分の身のまわりを淸める事もせず、家人の出入に挨拶さへせぬ様になり

下るものがあり、さほどでなくとも我事以外には一切思を煩はさない向が澤山あるそうです。

一體人間は日常相當の變化を歡迎するもので、讀書なら讀書にばかりたづさはつて居ると云ふ事は不可能です。殊に吾々女子には家庭的の仕事から得る樂みは全く缺く可らざるもので、如何に公務に忙しい人でも、家のために計劃し、他人の爲めに奔走するが爲に、非常によい變化と興味とを受けるものです。即ち他人と接して人情の融和を感じたといふ念は、常に我等に絶えざるもので、種々の方面で我々はそれに憧れて居ります。然るに年若い婦人が、智識を求める爲にと云つて家庭を捨てゝ上京し、或は家庭には唯眠ると云ふ許りで、日夜家人近親と遠つて居るといふ樣な事は、人情の完全な發達を計るといふ上に大きな間違であると思ひます。

多數の中には勿論都合上家を捨てゝ遊學なさらねばならぬ方もあるでせうが、心掛一つでは、他人の家に居るも、寄宿舍にゐても、或は外國に居ても、無人島でない以上は、家庭的生活の出來ぬ處はありますまい。

元來東洋は家族制度の發達した國と云ひますが、昨今の樣子では却つて西洋の方に眞に家庭精神は實現されて居るやうです。何故かなれば一家庭内の人情の融和があちらでは餘程よく出來てゐます。少くとも親と子との關係は極めて密接で、理性の方から割り出した意見の合はぬ場合でも、感情だけは美しく調和して居ります。婦人迄がいろ／＼とやかましい議論を持つて居る國ですから、一事一物に就て、家族中の考が分裂する事があります、然しそれが爲めに家族が疎遠になると云ふ樣な事は決してありません。

先づこちらで女學生位の年配ならば、娘達はまだ／＼しつかり母の監督を受けて居る頃で、日常の出入、衣食、交友、讀物其他一切、母或は其代理者の指揮をうけていたします。決して此年頃の女子が監督者なき處に起臥し、一人前の自由行動を取と云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

やうな事はありません。こちらで時に見るやうな、少し學問をした娘さん達が、昔風だと云つて母をないがしろにすると云ふ様な事は誠に稀です。又高等女學校生徒以上の年配になつて、卽ち大學生時代になつて、幾分か監督がゆるんでも、或は既に成業した人でも、其老年の親に對する仕打には、實に敬服す可き點が澤山あります。

それはあちらでは教育を受けつゝある女子が女學生として「女」といふものから離れる傾向がありません、從つて學生は最初から少婦人としての心を失はず、無邪氣に活潑に遊ぶ中にも、婦人自然の感情は遺憾なく養はれて來て居ります。

今日本で監督が行屆かず、節度が亂れて行くのは孝行を無理强にする親の罪だといはれる方があります、それにも充分の理由はあります、然し子たるものゝ側からは、此說に滿足して親の罪を鳴らして居る可き場合ではありますまい。教育を受けたものは充分自省して考ふ可き點が多からふと思ひます。將來の日本を背負つて起つ可き青年女子の方々は、半男半女的の荒んだ生活を去り、婦人として自重し尊敬せらるゝ地位に達せらる事を切望致します、「女らしい女」として世界に名高い日本婦人に、あまり似合はぬ御說法でありますが、老婆心から一言した次第であります。

新刊紹介

●柊山のくりすます　毛利　蕭譯　警醒社書店發行　定價　二十錢

●犬のはなし　大宮季貞編　警醒社書店發行　定價　二十錢

二書ともクリスマスより新年のおやすみなどにかけて、少年少女の好讀みもの也、前者は戰爭に出陣中のお父さんと留守をまもれる母と小供の美しい話、後者は忠義な犬や、人を助けた犬などの話を十八種集めたる面白き本也

禮儀の根本觀念

三谷民子

△愉快に思はしめるが肝要

聖書に、「兄弟の愛を以つて互に相愛し、禮儀を以て相譲るべし」といふ事が御座います。禮儀は自他の考あつて始めて起るもので御座います。自分ひとりならば。禮儀について格別の考も起らぬと存じます、それで、無禮の擧動を傍若無人の擧動と申します。禮儀の形は、土地、風俗、習慣の違ひによつて、いろ／＼にちがつて居ります。たとへば贈物にしましても、西洋人と、日本人とは此やり方が違ひます。日本では贈物は水引をかけて、お粗末なものですがと云つて持つて行きます。受けたる方は、それをそのまゝ床の間に飾つておいて、主人に見せるといふやうになつて居ります。西洋人は、贈物を粗末なものとは申しませぬ。これは大層味がよいからとか、これはあなたに似合ふと思ふからとか云つてもつて參ります。かういふ風に、表面にあらはれる形は違つて居ります。それから、此頃お寒くなつてまゐりましてから、私はかういふことを感じたので御座います。それは途中で自分の學校の生徒などに逢ひました時、向ふでコートをぬぐとか、手袋をとるとかせられますが、それは誠にお氣の毒でなりませぬ。もと／＼禮儀とは、人をして、愉快な感じを起さしむるのを云ふのであらうと存じます。それで、夏は涼しさうに、冬は暖かさうに感じさせるのがよいと存じます。風が凄じく吹く時などに、いろ／＼かぶり物をとるといふ事は、誠に氣の毒な感じがいたします。したがつて愉快な感じは致しませぬ。日本の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人は、昔からあまり外に出つけませぬので、家の内の禮儀の正しいにかゝはらず、外での禮儀が整うて居りませぬ。公會の席、または、途中での作法が定められて居りませぬ。且つ隨分亂暴な有様を見受けることが御座います。もし有識の方々が、こゝに考をおいて、もとより、禮儀の根本は、人を敬愛する心にあるのですが、外にあらはれる形を一定して下さることが出來れば、誠に幸なことゝ存じます。

△講義を餘處に小說を讀む

私が外國の學校に居りました時或る日或る講義に出ました。その講義はあまり面白いものでありませんでしたけれど、私は前にその時間には出ると約束しました。入場の札を買ひまして、私の名前は名簿に書きとめられましたから、私は、敎場と先生とに對する義務として、謹んで講義を聞て居りました。ふと見ますと、私の傍に居る西洋人が二人、外の本を下において見て居ます。私はその講義の參考書でゝもあるかと思うて見ますと、それは小說でした。私は驚きました。此の二人は、私の友だちであり、且つ隨分尊敬して居た人達でありましたから、私は注意を與へる積で、その人の腕をつゝきました。さうするとその人だちは、私に目ませをしたゝけで、またうつむいたまゝ續けて本を見て居ました。その後、私どもお友だち仲間で、禮儀の話が出ました時、その友だちが三谷さん、日本の禮儀はどんなですと聞きましたから、私は少し意地が惡いと思ひましたが日本の禮儀には敎場にのぞんで生徒の身分として、先生の講義を聞いて居ないなどと云ふのはありません。そんなのは、斷じて日本の禮儀でありませんと答へました。さうすると、その友人は、それはあなた餘り極端です。あの講義は面白くなかつたのだもの。信用のない講義はきくもきかぬも自由ですものと申しました。それで私は、そんなら始めから出る約束しなければよい、約束した以上、責任として謹聽しなければならぬではありませぬか。私はあ

なたのあんな行爲を見てあなたの卒業した大學に對する敬意を損じた。學校に對する美しい私の觀念をそこなうた、あなたは私に對する禮儀を失したものでありませんかと申しましたら、その友だちは誠に困つて居りました。

△還御を拜して萬歲を叫ぶ

今一つ心が禮儀にかなつて居れば、外にあらはれる行爲は、たとひ禮式の通りに叶つて居なくとも、うけ入れられるものだと、私がひどく感じたお話が御座います。それは、日露戰爭終局の當時、横濱に觀艦式が御座いました時、私は、學校の敎授の西洋人三人と、上級の生徒をつれて横濱に參りまして、觀艦式を拜觀しまして後、ステーションへ來ますと、恰度　陛下が御還御になる所で御座いました。私共は、水兵が一列にならんで御觀送申上げて居る後ろに立ちまして、恰度一間半ばかり離れて、誠に間近かに、　陛下を拜し上げました。　陛下は海軍大元帥の御資格で、次に東鄕大將、次に　皇太子殿下、皇太子殿下は、その時は、海軍大佐の御資格で、東鄕大將の御幕僚として、腕車に召して、大將のあとに御出で遊ばしました。御觀送申上ぐる者一同水を打つたやうに靜粛で御座いました。その時、私と共に居りました三人の西洋婦人は、日本に長く居た爲め、また日本を愛する爲め、感極まつて、恰度私共の前を御通御の際、うれしさのあまり、夢中になつて、萬歲を叫んでハンカチを振りました。私は、はら〳〵して　陛下の方をお見上げ申しますと　陛下は、三度御うなづき遊ばして、莞爾と御微笑遊ばしました。西洋婦人の目は涙に輝いて居りました。私も覺えず落涙いたしました事で御座います。その時、私はつくづく感じました、熱情がいたした禮儀は、たとひ、その形が、その土地の禮式通りにあてはまつて居りませんでも受け入れられるものであると。

△敬愛の念が禮儀の根本

つまり、禮儀といふものは、前に申しました聖書の句に御座いました通り、兄弟の愛を以て、互に愛すると云ふ事が土臺になつて、そして禮儀をもつて相讓るといふ事にならねばならぬと存じます。心から人を愛し、人を尊敬するといふ事が大切であると存じます。どんな人でも人間として見るならば、貴賤貧富の別なく尊敬は出來る筈で御座います。どのやうな貧賤の人でも、もしあの人が、自分と同じ境遇に居たならばどうであらう、或ひは自分よりも、もつと立派な人であるかも知れぬと考へ及ぼしたならば、決して尊敬の出來ぬなどといふとはありませぬ。此心を失ひますと、つひ人は、自分より目下の人を見ました時、驕りたかぶつて、所謂傍若無人の擧動をするやうな事になるので御座います。それと反對に、もしその人の心の中にあふれる敬愛の念がありましたならば、たとひその形は、女禮式の反對でも受け入れられるもので御座います。只今の我國の禮儀は、西洋風やら日本風やら、隨分混雜して居りましても一定して居りませぬけれど、つまり心から人を愛し人を敬するといふ事が禮儀の根本であらうかと存じます。たとひ、どのやうな人でも、人間といふものゝ眞價を尊重して決してないがしろにしない、常に心に敬愛の念を失はないのが禮儀の本體かと存じて居ります。（談話筆記）

亞米利加だより

海老名一雄

▼輸出輸入相償はぬ音信

「日本は今紅葉の盛りです」と懷しい友の音信に書いてあつた。定めし柿の實は熟し、松たけは香り、夜な夜な美しい秋の月が上野の森に懸つてるだろう。我マヂソンはもう冬の天地である。雪が降つて居る。メンドタの湖水が氷りきつて氷滑の出來るにももう間もあるまい。あゝ日本の秋は懷しいなと毎日毎日考へ乍ら僕は大學の丘を登り、圖書館の石段

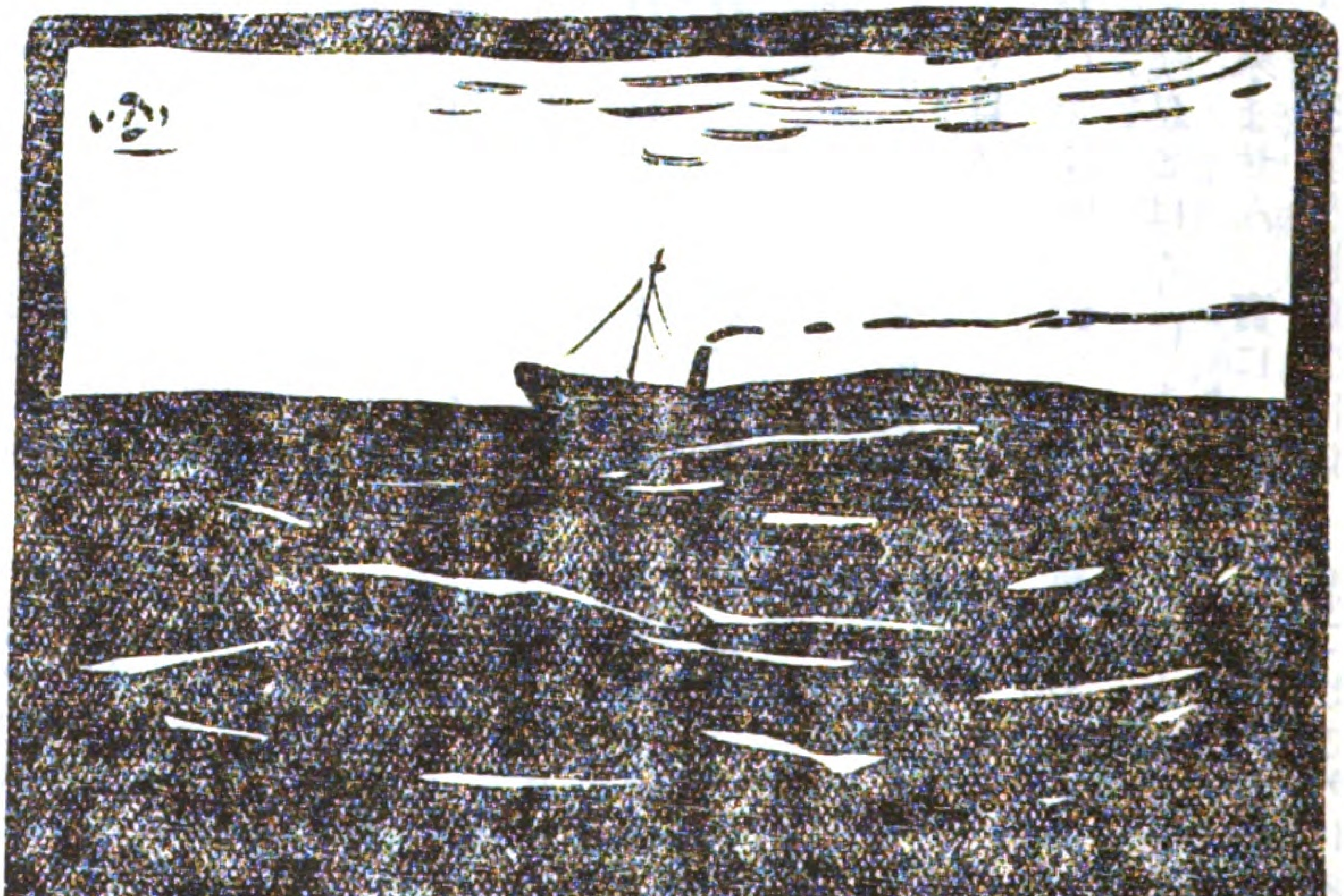
を踏み、湖畔の並樹を徘徊して居ります。實に一番嬉しいと云つたら何より日本からの手紙でしやう。日本人同志が出會した時、「おい日本からメールが來たかい」と誰れでも先づ第一に聞くのです。「ウン來た、手紙が一本、端書が三本」「やあ俺より一本多いぞ、癪だなあ」「そうよ、君等見た様に不人情な友達を持たないからな」こんな惡まれ口を叩き乍ら二人とも嬉しさがこみ上げて泣きたい許りなのである。其代り待構へて居たメール日に來ない事でもあらうものなら、それこそいまいましくて夜も寢られない位です。全く日本の人は手紙を書かない。何時でも輸出輸入相つぐなつた例がないのです。僕の友人に統計好きの男が居て一々出した手紙と受取つた手紙と帳面につけた相です。すると一年の終りに計算して見たら、出したのが三百何通、受取つたのが百何通。「ほんとに日本の奴等は駄目だよ」とぷり〳〵憤慨して居ました。只屢々思掛ない音信をして下さるのは一度洋行して此恨みをつく〴〵感じた事のある人々ばかりです。愛する讀者諸賢、異郷にある友をして願くは此愚痴をこぼさしめ給ふな。故郷よりの音信は眞に我等が最上の慰めです。

▼野獸の如き日本の移民

併しあめりかは實にいゝ所です。豪らい所です。初めカリホルニアはどちらかと云へば、不愉快でした。譯の分らぬ惡童にジヤツプ、ジヤツプと罵られて石を投つけられる位まだ我慢が出來ます。愛する同胞の幾千萬が自ら好んで墮落の生活をなし、趣味もなく、理想もなく、碌々として金を儲けては費ひ、費ひ果しては又働いてる無意義千萬の生活を見ては坐ろに憂國の情胸に湧くを感ぜざるを得ませんでした。日本の農夫は確かに彼等よりも智識の點に於て劣つて居ます。而かも彼等の如く不眞面目ではありますまい。彼等には祖先傳來の墳墓の地が、堪へ難き親和の情をもたらし、春夏秋冬孜々として其田を耕し、其畑を打たすの勤勉を敎へて居ます。誠に朝星を戴き夕月をのせて歸る眞面目な農民の生活位貴

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いものはありますまい。あゝ人生漂浪の民となる勿れ。加州の支那街に酒をくらひ、賭博にふけり、野獸の如く其日を送つて居る日本勞働者と雖ども、時に故郷の鎭守の森を夢み、田舍の正月のたのしかつた事、盆踊りの面白ろかつた事、さては一日の勞働を了つて家に歸り、父母兄妹團欒の夕餉に對ふ時の美はしかつたことを思ひ起さない事もありますまい。僕がこんな事を云ふと如何にも保守のやうに聞ゐましやう。進歩主義に反旗をあげるかの樣に聞ゐましやう。併し眞意は決してそうではありません。即眞面目な、着實な



殖民例へばあめりか初代の清教徒のやうな殖民が日本人によつてなされ得るならば僕は双手をあげて賛成します。而かも出稼主義の移民惡く云へば只金を儲けたさの欲望に驅られて、當もなく一攫千金の地をあめりかに求めてやつて來る所謂日本移民は僕の咒はざるを得ない所です。僕は東行の途中殊更に日本移民の生活を見んが爲めにソールトレーキ市の日本旅館に泊つて見ました。勿論入れ込みです。大抵一間にダブルベットが二つあつて四人づゝ泊るのです。彼等は勞働の口がない時此宿屋にごろついて、酒を飲んだり、賭

博をうつたりして暮して居るのです。だから夜の十時頃の喧しさと云つたらありません。僕と同室に一人の青年がありました。此男ももとは學問修業の目的であめりかにやつて來たのだそうです。所が働いて金を儲けるのがつい本位になり、そうかと云つて彼等のだらしなき生活に金の溜らう筈がなく、今は慣ひ性となつて彼所此方と勞働の口を求め、或は農園に馬鈴薯を掘り、或は鐵道の工事に從事し、金を儲けては又つかひ、つかつては又稼いで當もない年と月を送つて居るのです。彼れが僕に「貴君は何處へ行きます」と聞いた時「僕は勉强しにウイスカンシンの大學に行きます」と答へた所が「あゝ僕も勉强しに來たのです。併し今じやとても見込がありません何時日本へ歸れるかさへ當がないです」と云つて嘆息して居ました。其哀れな聲と嘆息とは今にあり〱と耳に殘つて忘れる事は出來ません。實に加州の天地と云ひ、人生と云ひ、凡そ自然主義の小説にこの位い材料を供給する所はありますまい。加

州邦人に文筆を弄する人があります。其人々の作物で折々加州の日本新聞紙に顯はれるのを見ますと、實に面をそむけざるを得ない位自然主義的色彩が盛んなのであります。

▼瀟洒たる小天地マヂソン

僕の加州觀は暫らくこれに止めましやう。書きたい事はまだ山の樣にありますが、こんな厭な事を並べるのは決して僕の本意でありませんからこゝに話頭を轉じます。加州と事かわりこゝマヂソンの天地には眞底から惚れ込んでしまひました。加州に居た頃「東へ、東へ」と云ふ語は僕が唯一の憧憬でしたが、一度こゝに來て見て全く其想像の違はざるを發見しました。僕はこゝに喋々と其風光を敍述する必要はあるまいと思ひます。マヂソンは確かにあめりかにしては珍しい瀟洒たる小天地です而してこゝには人種的僻見と云ふものが爪の垢程もありません。特にまたラインシユ博士の樣な日本通の學者が居られ、其東洋文明論の如き最も人氣ある講義の一であ

る所からして日本人の評判は頗るいゝのです。加ふるに日本人と云つても勞働者や下等な商人でなく、勤勉で而かも秀でた學生が多いのですから無理もない話です。

▼驚く可き婦人の勢力

あめりかに來て一番驚くのは婦人の勢力でしやう。日本に居て往來を歩くとき一番恐しいのは巡査かごろつき位のものでした。所があめりかでは實に婦人なのです。うつかり、ぶッつかりはしまいか、其スカートを踏みはしまいか、或は知つてる婦人が通りはしまいか、其用心と云つたら大抵のものではありません。あめりかでは婦人に對して男は直に脫帽しなければなりません。それは博士でも敎授でも其家の下女に脫帽するを要するのです。そうして其挨拶にも色々方式があつて、未だ紹介された事のない婦人には言葉は愚か、挨拶する事も出來ず。また例令紹介された婦人にでも、むかうが知らん顏をして行く時には此方も知らん顏をせねばならないのです。併しこんな事を苦に病むのもまだ始めの二三週間で、今では平氣の平左になりました。そうしてあめりか婦人の眞相が追々分つて來ます。

▼ヤンキーガールはお轉婆

天下あめりかの婦人程表情の盛んな婦人はありますまい。其大きな眼、其紅の頰、それが自由自在に活動して人を動かすの魔力となつて顯はれて來るのです。そうして大膽です。日本婦人の樣に下らぬ事を矢鱈に恥しがる樣な事は夢にもないのです。敎場で男子と机を並べ、傲然として議論の火花を散らす所なんか偉いものです。僕は暫くの間ある婦人から英語の發音を直してもらひました。其婦人はたつた十八の御孃さんです。それがいざ敎へるとなると立派に敎師の威嚴を保つて、堂々として大の男を眼下に見下してる所、僕はほと〳〵感心してしまひました。併し乍ら一得一失は無論やむを得ません。溫柔と云ふ美しい德では矢張日本婦人が天下の絕品でしやう。ヤンキーガールはどうしても御轉婆です。惡

く云へば其蓮葉々々して居る擧動は我々日本の男子には到底快感を與へてくれません。

▼樂しき戀を語る並木道

男女間の交際の自由放任なる兼ねて聞いては居たとは云へ驚くより外はないのです。つまり彼等は習慣上これを何とも思つて居ないのでしやう。僕は一夕友達に紹介されて二人の御孃さんを其家に訪ね、二時間あまり親しく遊んだ事がありました。其時其妹さんの十七になるのが僕にある男女がキッスして居る寫眞を見せて、「日本でもこんな風にしますか」と聞くのです。而かも平氣です。僕面喰つてついざぎまぎした返事をしてしまひました。これは只の一例です。大學の裏手に湖沿ひの並木道がありますが、こゝはユニヴァーシチードライヴと云つて若き男女の學生が二人々々腕をくみ、肩をすれ合せて樂しき戀を語り乍ら散歩する所なのです。こんな所で日本人などが野郎同士の散歩位氣の利かぬまた幅の利かぬ事はないのです。然らば此結果はどうであるか。

中には其裏面の暗黑を說く悲觀論者もあります。併し僕は寧ろ樂觀論者です。此威嚴あるあめりか婦人と、此婦人を敬重する男子との間は確かに神聖なものに相違ないと信じて差支ないと思ふのであります。

▼從順の美德は天下一品

かくの如く僕はあく迄あめりか婦人を尊敬する一人であります。彼等が高遠なる哲學、科學の講義などに列席するものゝ多いのには驚入りました。然しこれは或は智識慾の濫用ではあるまいかと思つて居ます。彼等は寧ろ其天與の才能に從つて文學とか、歷史とか云ふ方面に力を注いだ方がよいかと思ふのです。これは確かに千萬の老孃を造る基だと思はざるを得ません。此點に於て僕は日本婦人の所謂稽古事を尊重するものであります。此良妻を作らんとするよりも、寧ろ偉大なる婦人を作らんとするあめりかの敎育は確かに一得一失です。嘗て日本の婦人雜誌にさる學識ある日本婦人が「丸帯よりも顯微鏡」と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

云ふ題で婦人の科學的智能の發展を高調された事がありました。素より僕は其眞意を諒とするものであります。併し僕は植物學者でも動物學者でもありません。顯微鏡の御土產は眞平です。いや長棹の代りにピアノをかつぎ込まれて、赤ん坊が泣いてるにも御構なくメンデルゾーンやベートヴェンにあこがれ給ふ奧樣も御免です。驕奢は敢て欲せずとするも或程度迄見苦しからぬ樣に衣をまとひ、髮を調へる術を心得て欲しいのです。贅澤は云はねど或程度迄調理の法を心得、料理の教科書と首つ引で半熟の飯を作らぬ樣に心懸けて戴きたいのです。そうしてまた哲學を論じ、科學を云々し給はずとも或程度迄學問の趣味を持つて戴きたいのです。一葉女史の樣な傑作をものし給はずとも、近松の淨瑠璃位は了解して貰ひたいのです。かくの如く並べ立てゝ僕の注文を充たして吳れるのは日本婦人でしやうか、あめりか婦人でしやうか。云ふ迄もない前者です。人或は日本婦人の從順を封建制度の餘風たる奴隸的慣習にすぎないと云ふかも知れません。或は其起源はそうであつたかも知れません。併し已に或る歷史的發達によつて、淳化し美化し靈化し得たる日本婦人從順の美德は、實に天下一品の誇です。要之に僕の結論はあめりか婦人をあく迄敬重し乍らも、之れを採つて日本婦人在來の美德に代へ樣とする事は單に不可能なるのみならず、不見識も亦甚しいものであると云ふのであります。實に東西兩洋文明の發達が全然相異れる如く、兩洋婦人の性格も全然相異つた發達の歷史を有して居る。明治の新事業は決して竹に木を續ぐが如き不見識をやつてはならぬ。どうして櫻の樹に梅の花が咲かうぞ。吾人が西洋を學ぶにはあく迄「僅かに參考に供する」と云ふ心懸けを忘れてはならないのであります。

大變議論めいた事になりました。こう話しが理に落ちてはもう御了ひです。すなはちこゝに筆を止めます。終りに臨んで觀察する所平々凡々、徒らに紙面を汚した事誠に汗顏に堪へません。不一。

降誕祭對話 七ツの徳

上村邦良

人物　主人　愛子
　　　客　　信子
　　　　　　望子
　　　　　　忍三
　　　　　　正子
　　　　　　節子
　　　　　　謙子
　　　天使　一人

會場極めて質朴、中央に椅子テーブル列び正面の壁上に時計あり、主人愛子は時計の漸次集會時刻を指さんとし居るを見て何んとなく忙はしげに其室内を尚一層整然たらしむ。

愛子『あゝ！もう時間も迫りますから、皆様がいらつしやいましやう』

と獨言す、此間に望子信子節子謙子正子の五人、愛子の家を訪れて戸口に到る。

望子『御免下さい』

愛子は急ぎ戸口に向ひ行き互に禮を交す、望子代表さなり、

望子『唯今御友達を御誘ひして、御一緒に參りました』

愛子『まあ！皆様よくいらつしやいました、どうぞ御通り下さいませ』

主客一同丁寧に禮をなして議席に着かんとする時又訪づれる人の聲あり。

忍三『御免』

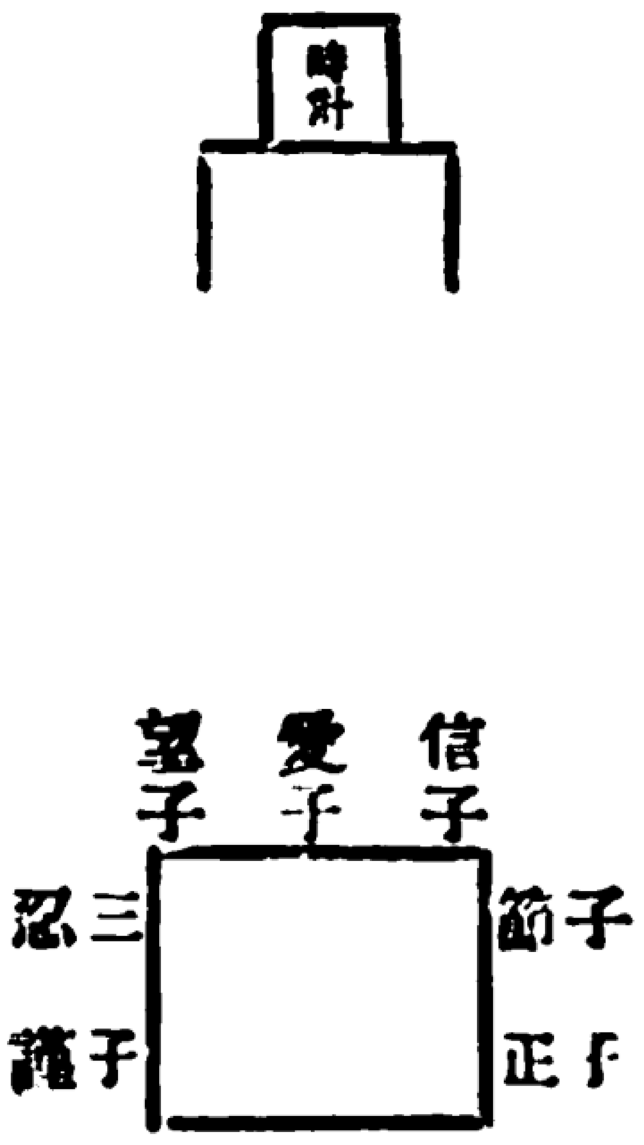
主人愛子戸口に行く。

忍三『あゝ少し遲れました』

と云ひて互に禮を交す。

愛子『いえ、決して遲いことは御座いませぬ　皆様も今いらしつた許りで御座います、どうぞ、ずつと御上り下さい』

主客七人議席に着く、その順序の如し。



稍々ありて主人愛子立ち、一場の挨拶を爲し而して會議の主意を説明す。

豐子『あゝ！こんなお寒い晩に御集りを願ひましたのにもかゝはらず、かくも皆樣が御出席下さいまして、誠に嬉う存じます、就ては早速で御座いますが、人が人として是非行はねばならないことに就き、何の御遠慮もなく、皆樣の御意見を御述べ下さいまして、世の人を善い方に導くために、御計ひ遊ばされんことを御願ひ申します』

（議事始まらんとして正子席を立ち）

正子『私の心から此頃感じますることは、どうしてこんなに世の中の人々が、うそ偽りを平氣で行ふのでありましやうか、ほんとに（懐中より正義と書きたるものを取り出し示しつゝ）正義と云ふことが、考へられ、尊ばれないのは殘念至極で御座います、どうか此正義の心が、世の人々の心に深く／＼入つて行く樣に、私は望んで止まないので御座います』

（正子着坐、謹子立つ、（以下同樣略す））

謹子『私は思ひまするに、今少し人々が（懐中より謹愼と記したるものを出し示しつゝ）愼み深くなつていたゞきたいので御座います、あまり物事が輕々しく、又出過ぎて、謙遜の徳などは跡方もなくならうとして居ります、殊になげかはしいのは優しくてゐらつしやる筈の御婦人の中に、だん／＼此徳の缺けて參りますことで御座います、どうか私共は、愼み深く、謙遜に、其上柔和でなくてはならんと思ひます』

節子『唯今、御二人の非常に大切な御話が御座いまし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たが、つまり考へて見まするに、人が自分の（懷中より節制と書きたるものを出し示しつゝ）慾を抑へると云ふことが起りませんので、正義の行も、愼み深い謙遜の德をも、修められないことと存じます、それで、私共は深く自分に省みて、何事でも程よく制して、云ふたり又は行ふたりすることに、努めたいものと私は思ひます』

忍三『これは〳〵皆樣の御名説、御尤に存じますが、先づ何より先きに、私共の最も注意しなければならぬことは、（懷中より忍耐と書せるものを出し示しつゝ）耐へ忍ぶと云ふことであります、私共が如何に正しい心、愼み深い心を持つて居つても、此心がなければ困難の場合に遇つたとき、どうしてそこを通り拔けることが出來ましやう？あゝ忍耐!!忍耐は實に萬事の根元であります、どうぞ皆樣切に御考を願ひます』

信子『唯今の御話では、忍耐が萬事の根元だとの仰で御座いますが、然し其忍耐と云ふことも、神樣を堅く深く（懷中より信仰と記せるものを出し示しつゝ）信じ奉ると云ふことが御座いませんならば、忍耐も忍耐の甲斐のないことゝなりましやう、それで先づ私共は何事につけても、天の神樣を信じて行ひたいもので御座います、これでこそ磐の上に立つた樣に、安全なることが出來ます』（此問極めて短く、望子立ち）

望子『そうして私共は、淸い、尊い神樣を日に〳〵（懷中より希望と書きたるものを出し示しつ）望み、喜びに滿ちて過して行かなければならないと思ひます、かういふ風にあつたならば、どんな時にも決して失望する樣なことはなく、極く元氣に滿ちて世の中を渡り、多くの善いことを爲し得ることゝ信じます』

愛子『まあ！皆樣方には誠に御立派な御意見を御述べ下さいまして、私は非常に力強く、又大變に悟るところが御座いました、然し私はまだ最も大切な〳〵ことがあると思ひます（懷中より愛と記し

たるものを取り出し示しつゝ）それは愛と云ふことでございます、神樣が私共を常に〳〵御愛し下さる樣に、亦私共も心の奥底から神樣を御愛し申し、人樣を御愛しすることが出來まするならば、これこそ實に最も人として美はしいことで御座います、私共は何事につけても、愛の心を土臺としまするならば、凡てが平和に、清く、心地よくなつて行くことゝ存じます』

かく互に意見を述べ終はりて、何んとなく得意の色の表はれたるとき、忍三立ち更に議事を進めんとす。

忍三『皆樣は悉く立派の御考で、どれが優り、どれが劣ると言ふことも出來ません、誠に私も愛子さんと同じ樣に非常に嬉しくて、又大變に悟つた次第であります。されば更に進んで、此七の德、卽ち正義、謹愼、節制、忍耐、信仰、希望、愛を世の人々に傳へる方法を考へたいと思ひます、然し殘念なことには、私共人間は力が足りませんので、是等の德を皆が皆まで爲し遂げ、又は傳へ得ることは出來ません！皆樣どうしたものでしやう?!』

他の六人『さうですね、さあどうしたものでやう！』

と、七人共に頭を垂れ考へ込む樣子、稍々ありて信子立ち、

信子『皆樣！先づ私共は其方法に就き、一心に神樣に御祈り致さうでは御座いませんか』

と發言す。

他の六人『あゝさう致しましやう、さう致しましやう』

一同信賴と希望とに滿ちたる顔色にて立席、愛子恭しく祈禱を捧ぐ。

愛子『天に在します私共の神樣、今宵御惠によりまして此所に集まり、御互に信ずるところを述べあひまして、大變に力を得ましたることを有がたく御禮申し上げます。けれども私共の考へまする七の德を、完全に世の中に傳へますには、誠に力足らなく思ふもので御座います故、何卒其方法を御示しあらんことを切に御願ひ申します　アーメン』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うるはしき樂の音起ると同時に天使忽焉として顯はれ、祈禱終りて未だ立席の儘、祈り心にて頭を垂れ居る七人の席へ靜々近よりて其邊を兩三回往復す、其姿は白衣にて、絲の髮房々と垂れ、光々と輝やき渡る星を額に戴き左手は垂れて、右手に新約聖書を持ちて高く揭ぐ。樂の音了ると共に、

天使『私は、（此聲に七人は驚き眼を一齊に其方へと向ける）神樣の御使として參つたもので御座います、唯今皆樣の熱心なる御話と、御祈禱とを非常に神樣は御喜びなさいまして、今宵神樣の一人子イエス樣を、天より御降しになりました、イエス樣は、其七の德を最も完全に備へてゐらせられ、又其上確に夫等の德を人の心にお植え付け遊ばすので御座います、されば皆樣は、今宵を樂しきクリスマスとして御祝ひなさるべきで御座いましやう』

天使はかく云ひ終りて何處となく消ゆ。一同着席、

愛子は嬉しさに堪へられざる有樣にて立ち、

愛子『あゝうれしい!! こんな嬉しいことはない、ねえ皆さん!! これから街へ行つて人々に此喜ばしい音づれを傳へましやう』

七人共に喜色滿面に表はる。

他の六人『あゝほんとうに嬉しいです、さあ！一時も早く共に行きましやう』

と中半立ち掛けて

愛子『さあ!! 行きましやう』

と更に促し次の歌を唱ひつゝ、皆々元氣に滿ちて退場。

讃美歌四百二十九番の譜

いそげやいそげわが友
　このよろこびを
つたへんためにとまちへ
　いそぎゆかん。
いともたうとき我が神は
けがれるこの世の人を
救んためにとて
主をくだしぬ。

【本篇は去る廿四日の聖誕祭に本鄉敎會の日曜學校生徒をして演ぜしめたるもの也】

木枯の朝

野口せい子

○思ひ行き又思ひ行き火の山の煙のはてに我心生く

○なりはひや油布もてレール拭く男子もありき木枯の朝

○性故の涙と君は我泣くをいと情なげに笑らひ給へり

○作すよりは作さぬに馴れて細々の歌の生命の續く悲しさ

○行く秋や夕され空の底すみて榛名淺間は紺色に浮く

○水の音遠く冴たり大利根や夜寒の空に星は氷りて

○山は山、水は水たり石に似し心に何のひゞきぞあらむ

○かろく病み海にうつりし君が秋羨やむほどの淋しき心（以下茅ヶ崎の君方へ）

○相模の海松の木の間に行く秋をさめたる富士に君か祈らん

○七夜とはいはじ一夜を行く秋の名殘に欲しき君が御すさび

湯臺叢話（其六）

谷津直秀

十八　ロバアト、ブラウニングがフローレンスに其子のバレットと云ふ畫工と二人で住んでゐましたとき、或る午後、友人を招待して其作の展覽をやりました、父ブラウニングは接待の役でした、其時一人の識つた樣でもあるし識らない樣でもある女が案内を乞ひました故、どう挨拶していゝか一寸躊躇し居ましたが、其女は「私は御主人のコックですがバレットさんが見にこいと云はれたのでやつて參りました」と云ひました。夫で父ブラウニングは此女を懇懃に案内して一々畫を說明して他の貴婦人を取扱ふのと差が無つたそうです。

十九　獨逸皇后の格言は簡單で三の言葉です「敎會、子供、勝手」（キルへ、キンダー、キユツへ）

二十　南獨逸の黑森（シユワルツワルト）は名の示す通り、山又山モミの樣な樹が欝蒼として、綠と云ふよりは黑く見ゐます。或る夏其中を旅行しましたが、一寸氣の付いたことは、平地なれば橫に廣がる楓や樫の樣な樹がモミの間に挾まれて、眞直に高くモミの樣な枝ぶりとなつてゐることです。古の聖人の云うた、賢きものと行くものは賢かるべしと云ふに思ひ合せて面白く感じました。

二十一　ダーウヰンの自傳中の「審美的の趣味を失ふのは幸福を失ふので吾人の感情を鈍らせて智能にも道義的の性質にも有害である」と書いてある。ダーウヰン自身審美的の趣味を失つたのは、病身であつた爲めで、科學其物の罪ではないのです。

二十二　或る農學校では、生徒の試作物を生徒が盜まない樣に、種々柵とか錠とかの嚴重な手段を用ひて居るそうですが、農學を敎へる前に盜まない樣な人を造り出だした方が宜いでしよう。

德富健次郎氏來書

海老名夫人

一月號には何か書く約束をしながら、少々氣まづい事があつたゝめ、つい期日を晩らしてしまつた。

母は小生を生むでくれ、姉は小生を叱つてくれ、伯母叔母には世話をかけ、妻には十七年も面倒を見てもらつて居る。皆女です。

新女界に書くのは小生の喜でなくてはならぬ。二月號にはつまらぬものでも書きます。

明治四十三年十二月十五日

武藏野粕谷の里にて

德富健次郎

子供の考

稲井なでしこ

▲今年尋常科五年生で日曜學校に來て居る一人の子供が御座います。平和な家庭に信仰あつき父母の手に育てらるゝ子供は、どこか異つた所あがるさ私は何時も感心して居ります。

▲佛教信者の某さ云ふ人が時々御家に來ては、色々話して行かれる事が御座います、或日の事でした、お寺に祭つてある佛樣が有り難いさ云ふ話をして居ますさ、子供の事ですから遠慮も何もあつたものでは御座いません「けれど小父さん、佛樣さ云ふものを見た人は無いのでせう目に見えぬものを之が佛樣ださ云つて作つた佛像ならそれは眞實の者でなくて拵へものじやありませんか、僕はそんな佛像を有り難いさは思ひません」さ申しました。

▲又或時の事「貴君は大きくなつて何になりますか」さききました處が「軍人にならうか醫者にならうか」さ思案して居りますから「軍人になるさ何時死ぬるかわかりませんよ」さつひ口をすべらしました。子供はすかさず、「人は何になつたつて何時死ぬるかわかりません、軍人になつたから覺悟しなければならぬさ云ふのはおそいさ思ひます、何になつても何時死んでもよいさ云ふしたくさ覺悟さを常からもつて居る事が大事ださ僕は思つて居ます」さ申しました。私は大人の樣な事を云ふ子ださ驚きもし、又却つて子供に敎へられた樣な感じもいたしました。

▲子供は案外むづかしい事を知つて居るものです。此子供は元來頭のすぐれた方ですが、又其母樣も賢明な方の樣にきいて居ります。「善い人になりなさい、人に賞められる樣でも神樣の御心にかなはぬ事は澤山あります、神樣の御心をおよろこばせる樣な人にならればなりませぬ」さ云ふのが常に此子供の母樣の敎へられる所だそうです。驚かれる樣な子供の考へを聞いて其の母樣の人格も忍ばれるので御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

子供の友の心配

倉橋惣三

子供に何の與ふる處はなくとも、せめて子供を傷け度くないと思ふ。それも素より子供の手を折り足を折る程の狼藉を振舞はぬとて、それで子供を害しないとはいへない。子供のやさしい心を傷け度くないと思ふ。

子供にどれだけの道德的本性があるかといふことは、隨分議論も分かれる處らしい。併し、假令所謂道德心は後天的に得るものとしても、同情といひ、愛他心といひ、さういふ高尙な複雜な德性は中々發達しないものであるとしても、かゝる貴い立派なる德性の素地となる或るものは初めから子供にある。生れながらにして有して居る。成人の道德上の用語では一寸名づけ難いが、假りにやさしい心とも稱しようか、さういふものは確にある。勿論未だ訓錬を經ない子供のことであるから、かういふ心も一方の強烈な主我性に覆はれることは尠くない。寧ろ多くの場合には、主我が子供の全本性であるかの樣に思はれる。併し、其の無遠慮な主我の岩石の間に、やさしい心はちら／＼と流れ出る。折にふれては泉の樣に迸り出る。

たゞ其の外部にあらはるゝ形が一つでない。否、子供の方から見れば、同じやさしい心の迸出に他ならぬのを、成人が色々に解釋し、說明して、夫々の名をつける。或は信賴の態となり、或は惻隱の情と

なり、或は顏色をうかゞふ諂諛の心だとも解せられる。

子供のやさしい心を傷け度くないといふのは、此の心を傷け度くないといふのである。

一　己が心の樣に他の心を解するのは、吾々の常である。君子の目には總ての人が善に見える。惡人の目には總てのことが惡に見える。鏡でさへも其の凹凸のまゝに世態が映る。己を以て他を忖度するは、理の上に於ては或は已むを得ぬ自然のことでもあらう。併し、實際に於て、善解と惡解とは、其の被忖度者に與ふる影響に於て、大いなる違ゐがある。それも他人の解釋の如何に拘はらず超然たり得るものに對しては、其の影響が左程大ではないが、他人の解釋によつて直に左右さるゝものに對しては最も影響が甚しい。其の最なるものは即ち子供である。子供の、善にまれ惡にまれ、どうせ未だ固定しない心性は、周圍の人が解釋して左樣取り扱つてゆく通りになつてゆくものである。何も必ずしも惡い手本を敎へないでも、子供の爲すことと言ふことを總て惡に解釋して、惡人としての取扱を與へて居れば、其の子供はきつと惡人になる。或はこれは極端の例としても、子供がたゞ其のやさしい心のまゝに爲した行ひ言つた言葉を、吾等の濁つた目に見、曲つた耳に聞いて、惡い方に解釋して、從つて惡としての取扱ひを與へた場合、其の子供のやさしい心は、そこに一つの傷をうける。而して其の傷は假令一時の傷痕となつても遂に消えない。況んや子供のやさしい心全體が、そういふ傷口から腐つてゆく。

吾等は、斯ういふ傷を子供の心に與へたことは無いであらうか。子供の友たる任務は、子供を監督するにあると聞いて、吾等は直に監視の目を鋭くせねばならぬと力む。素よりそれも大に大切であらう。併し、子供の友は、子供にだまされない許りが能ではない。吾等は寧ろ、子供に對する此の意地惡い眼力が鈍くなつて、もつと〳〵子供にだまされる樣になり度いと思ふ。そうして、如何なることがあつて

も、子供のやさしい心に惡解の傷を與へる心配のない樣になり度いと思ふ。假りに子供が實際は善くない心からしたことでも、善解して毫も疑はぬ程の慇に先づなり度いと思ふ。まして、子供のやさしい心を惡解する此のわるがしこさに離れ度いと思ふ。

二　子供はよく人の顏色を見るといふ、其の中には主我的の心からする樣の場合も無いではなかろう。併し、此の、人の顏色に非常に感じ易いといふことは、先づ其の本來は、子供のやさしい心に基くのである。わが親しい人の顏に、喜びの樂しげの色が見ゆる時は、子供は樂しく嬉しいのである。他の人の顏に、悲しげな不快の色の見ゆる時は、子供は悲しく、つらいのである。勿論、それが複雜な同情心といふことになるのは、發達を待つた後のことであろう。併し、此のやさしい心は思ひがけなく子供にあらはれることがある。

しかも、吾等は亦いろ／＼の場合、此のやさしい心に正しく酬いないことが多い。背くことすら少くない。或は己が心の屈托に氣をとられて、子供のやさしい志に氣づかぬこともある。心づいてもうるさがることもある。甚しいは餘計なことだと拒けることもある。

ウォルヅォースの詩に「余は多くの無情なる心を聞けり。あたゝかき親切が冷かに報ゐられしを聞けり」といふ句がある。強い、互に相當に頑な、爭ひ易い成人と成人との間のことは假りに暫く言はぬ。やさしい子供の心に對しても、吾等此の「無情なる心」をかへしたことはないか。子供のやさしさは、素よりかすかなものである。あらはして呉れたとて何の力にも足りるものではないかも知れぬ。しかし其の子供には心のありたけである。その親切を「冷かに報ゐ」たことはないか。

世に多くの無情なる成人の心が、斯くして出來てゆくのではないかと思ふ。子供の時に「冷かに報ゐ」られて、切角のやさしい心は萠芽のまゝに枯らされるのである。如何に多くの此の萠芽が、如何に多く

の冷たさに枯らされることかと思ふ。子供の同情心を養はうと、いくら色々の他の法をつとめても、一方に枯らして居ては何にもならない。假令、吾等に、子供の同情心養成の名案があらずとも、あらゆる此萠芽に、一つ〳〵、必ず溫に報ゐる樣な細やかな心をこそ先づ持ち度いと思ふ。

三　バーンスは、自分に逢て逃げてゆく鼠を見て鼠をして人を怖れざるを得ざらしめるのが嘆はしいと歌つた。

子供の信賴の心には、分折すれば種々の要素も含まれて居るであらうが、要は自分に對する其の人の愛を疑はぬことである。此全幅の信賴。之れ又、嫉妬、猜疑を知らぬ子供のやさしい心である。其の子供の心に、人の愛の當てにならぬことを經驗させるのは誰れであらう。人の愛には僞りのあることを學ばしめるのは誰れであらう。愛に對する疑惑、嫉妬の苦痛を可憐の心に味はしめるのは誰れであらう。斯くて、鼠が人を見れば必ず逃げてゆく樣に、人を見れば必ず疑ふ樣な心持に子供を導くものは誰れであらう。

子供は勿論我がまゝである。自分勝手である。無遠慮である。併し、それは必ずしも子供の主我の心からのみ出るのではない。人の己れを愛することのみを知つて、他を顧みる丈の思ひはからひを知らぬからである。吾等は常に、此の消息を汲んでやり度いと思ふ。事の辨ひは教へねばなるまい。併し、全き我まゝを要求する程の全き信賴を害し度くないと思ふ。子供の信賴に優るとも劣らざる愛を與へて子供に「愛の失望」を聊かなりとさせ度くないと思ふ。愛に破れたる人の心の悲しみと苦がみとは詩人の常に歌ふ處である。又其の結果、頑なる心に變りゆく人世の悲慘は、常に同情と共に戰慄を以て描かるゝ處である。併し、それと同じことを吾等は子供のやさしい心に與へつゝありはせぬか。

吾等は、子供の我まゝを抑へることも必要であらう。自分勝手をたしなめることも必要であらう。其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の餘りの無遠慮を慎ますことも必要であらう。併し、それよりも先きに、總ての子供の信頼に必ず充分に報ゐる樣になり度いと思ふ。總ての子供が豫期する以上の愛を心に湛ゐて置き度いと思ふ。假令子供が吾等の知識や力を見積り過ぎたと氣づく時はあつても、愛の失望だけはさせ度くないと思ふ。

吾等の知識や力の足らない爲に、子供に何も與へ得なかつたとて、磨臼を頸にかけられて、海の深みへ沈められることもあるまい。吾等子供の友となりつゝ、しかも子供のやさしい心を傷け害ふ躓きとなつたとあつては、相濟まぬと思ふ心の苦しさは、海の底へ沈んでも脱し得まいと思ふ。

肉體美と精神美

海老名みや

▽色香果敢なき肉體の美

「あや子、お正月がもうじき來て嬉しいね」と申ますと、眞面目な顏をして『私嬉しかありませんわ。だつて何時迄も子供で居たいんですもの』。これが九歲の少女の答としては私は意外に感じました。何故いやなのであらう、大きくなるにつれて色々の事も覺えられ、これ迄出來なかつたことも出來る樣になるので、嘸嬉しいことでありさうなものですのに。六歲と八歲の男の兒が來年は七つになる、九つになると云つて喜んで居る許りで、十二歲の子供も年をとるのはいやだと云ひます。況して其上の者皆いやだ〳〵と申ます。振り返つて自分の少女時代のことを思ひ起して見ますに十八九の頃身體の發育も漸く止まり

て、もう大人の仲間に這入つたなと思ふと、何んだか樂しみがなくなつた樣で、つまらないいやな氣持がしたことを記臆して居ます。これは人間が幾千年が間繰返し繰返して來た人情であると思ひます。人は慥かに廿歳前後が人生の花で、盛りを過れば、色香衰ろへ、忽にして散り失せて仕舞ひます。あゝあれが絶世の美人だと歌はれた人のなれの果かと老ひさらぼひし姿を見ては、實に夢なの世やと歎聲を漏し度なります。私は近比多くの婦人の上を考て見まして、あまりに其盛の短かきに驚かされます。つい幾年かの前まで何々女學校の才媛として知られた、鬼も十八の比は元よりさまで美人と云ふではありませぬが、其黑髮は水も滴らん許り艶やかに、若き血は頰にみなぎり双の眼は希望に輝きて逢ふものをして振り返らしめた美はしの少女が、一度人生の逆境に踏み込みては忽にして落花狼籍見る影げもない姿となつて仕舞ます。よしや逆境といふ樣でなくとも、少し世智辛い世の味を知りますと、もうそれ丈で屈託して意氣は沈み希望は失せ何所となく見すぼらしくなつて仕舞ます、果して人世は此樣なものでせうか。これつきりのものと觀念しなければならないものならば、私は實に苦痛でございます。今蝶の樣に樂しく跳ね廻つてる少女等を見ては寧ろ此悲しい運命を思はずにはゐられませぬ。

新人第拾貳卷第壹號目次（一月一日發行）

◎社説

●教育勅語と基督教……海老名彈正

◎教壇

●超人の使命……海老名彈正

◎思苑

◎精神生活の内容……哲學博士 高木壬太郎

●時代思潮を論じて帝國教育家の猛省を促す……加藤直士

◎基督教界の缺陷……中村長之助

●杜翁の臨終と人生の秘機……文學士 川島金五郎

◎マンフレットの性格に就て……文學士 佐藤清

◎乙女まりや……一色醒川

◎瑠璃卵……不喚樓

◎聖書講義

◎馬可傳……海老名彈正

◎雜俎

◎在米日本學生小觀……文學士 海老名一雄

◎全國青年團指導開發論……西内天行

●雄辯家としての廣翁……東禹生

◎研究

●基督教の根本眞理……海老名彈正

◎東都講壇

◎哲學會秋期大會

▲敬を論ず……文學士 藤井健治郎氏

▲個人意識と社會意識……文學博士 元良勇次郎氏

◎時潮小觀

●過渡時代と極端思想……境野黄洋氏

◎偶感偶語……田山花袋氏

◎婦人問題の鍵鑰……法學博士 田中穗積氏

（◎大絃小絃（隨感四則））

◎時評

◎デビス博士を憶ふ……海老名彈正

▲應聘者に對する淸國政府の態度

▲金谷川の橋畔に立ちて

發行所 東京市小石川區林町四十三番地 新人社事務所

振替口座一四〇〇五

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新年の最も好き讀物

夢二畫集

春の卷　七版　定價五拾錢　送料八錢

花の卷　四版　定價四拾錢　送料四錢

夏の卷　六版　定價五拾錢　送料八錢

旅の卷　四版　定價七拾錢　送料六錢

秋の卷　再版　定價五拾錢　送料八錢

冬の卷　新刊　定價五拾錢　送料八錢

繪物語　サヨナラ　定價七拾錢　送料六錢

繪物語　小供の圖　定價三十五錢　送料六錢

高島平三郎著　夢二畫　兒童を謳へる文學　定價壹圓　送料八錢

石川弘著　泰西名家の手紙　定價五拾錢　送料六錢

柴田流星著　夢二畫　少年の寶物教育　飛行器物語　定價卅八錢　送料四錢

發行所　東京麴町二丁目二番地　振替東京二〇九一四番　洛陽堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▽年と共に卑しき表情

然し私はこれは只皮相の感で、人生の眞相を知らず、又自ら眞相に觸れないのだと思ひます。廿前後の燃え立つ樣な紅の色こそ褪て見ねますが、追々にとる年毎に積み重ねし脩養に識見も增し、品位も備りましては、眞に其人物に接して敬慕の情に堪へないものが出來て參ります。あゝもう自分は三十になつた、人生の盛りも過ぎてつまらないなどゝ思ふは、以ての外の心得違ひで、上へ上へと樂しんで進步して行く可きだと思ひます。此點は男子と女子と大變な違ひがあると思ひます。何の見處もなかつた廿四五の靑年が、三十を過ぎ四十となりて、見違ふ樣に立派な殿振となられる事は多く見る例で、女子とは全然反對の事實であります。これは男子の美は精神の上に見て、婦人の美は皮相の肉に許り求めるからではありますまいか。外部のた化粧に許り憂身をやつして內部の脩養には氣もつかずに居りますと、其心の脩らない處から、樣々の賤しい忌むべき表情が、或は眼に口元に又は顔の何處かに小皺となつて顯はれて參りまして、我と我姿を鏡にうつしてゾットする樣になつてしまひます。實に情ない話であります。

▽凛とした三十の奧樣振

さはれ一度思ひを轉じまして內部の修養に專ら心をひそめ思ひを大空の高きに走せ天の父の大御心に憧憬れつゝ、地上の日々の生活も神の御業の一部分と心得て見ますれば、針を以てぼろをつぎながらも、又手にひゞをきらして御飯を焚きながらも、樣々に智識と教訓とインスピレーションが、たえず湧て來て、眞に貴い生活を自覺するに至ますれば、其人の風貌は日毎に年毎に引あがりて見ゆる樣になります。廿の花嫁樣は可愛いには可愛いゝが、凛として冒す可からざる威風を備へた三十の奧樣振には到底及ばなからうと思ひます。人が今少し精神美にあこがるゝ樣にならなければ實につまりませぬ。婦人を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して人形を去る遠からざるものとして、男子に取扱かはれ、又自分も然か心得て甘んじて居る樣では徒らに色の移らうを嘆くの外はありませぬ。

私はたま〳〵電車の中などて、年老たる夫妻相並んでかけて居るのを見ますと、多くは女子の方が男子より見劣がする樣で誠にいやな感じが致します。殊に其人が天下の要路に立つ程の人物でもあれば、六十七十になりましても、鋭氣は衰ろへませんで、其英姿に接しては自ら敬慕の念に堪へないものがございます。然るに其半身として永年つれそひ給ひし御方は如何にと見れば、多くは平凡の一老婦人で、どことて取り立てゝ云ふ程の御人柄にも見えず、ましてや褪せ果てた昔の色香をさも大切に取繕らうて粧をこらした姿は實に老女の化粧で物すごく、あはれに見えるばかりです。

△仕事の範圍を擴めよ

一

何故女は斯う見すぼらしう老ひ朽ちるのでしやうか。これは慥に理由のあることだと思ひます。マア考へてごらんなさい。女といふものは一家の事にのみ限られて、而かも寢たり起きたり着たり食べたりのことに許り心を勞しまして、良人の頭にはどんなことを考へてるか窺ひ知る可らざるものと心得、又女の知る可きことでないと敎わられ、甘んじて其單調な生活を幾十年が間繰返し居りましては、到底それを脱け出すことは六ケしからうと思ひます。と、申て私は女が斯な樣な事許りさせられてつまらないと不平を云ふのではありませぬが、もつと女の範圍を擴める樣にしなければいけないと思ひます。女と雖も社會の事にも頭をつかひ。子女教育の如きは、例へば男兒の事と雖も、お父樣にと一々持つて行かずに大抵な事は母として成して行く樣に致しますと樣々の事に出會しまして苦心もし、頭も練りますから、第一に自分が大に進歩發達致します。又進歩しなければならないことを自覺して、常に〳〵凡ての點に修養を加へますから、知らず〳〵の間に年と共

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に、立派な人格を作り上げることが出來樣と思ひます。かゝれば女は女相應に左まで見劣りせぬ樣に年寄まして實に心地よい尊敬す可き懷かしい老婦人となることが出來ましやう。僅かに五年十年を盛りとする肉の色香は、どんな美顏術を施しましても永久に保たせることは出來ませぬ。そしてその果敢ない美にのみ重きを置きまして、三十四十になればもう人生の切端の樣に心得、あじきなく思はるゝは實に惡るい心得違ひであります。我靈の發展を朝に夕に希ふて居る私共は、眞に喜んで新年を迎ねばなりませぬ。喜んでむかへた此年を喜んで送り度ではありませぬか。『外なる人は破るゝとも内なる人は日々に新なり』實にこの生涯に這入て初めて人生の眞意義を解することが出來樣と思ひます。

滑稽録

醒川生

○之を或る泥棒の言に聞く、穿物の始末惡しき玄關は乘するに恰好なる家也と、敢て奇拔の見に非ずと雖も見着けごころある言なりと思ひし。

○之を或る經世家の談に聞く。所謂不景氣の影響するや、先づ婦人の糠袋に於てすと、亦面白き言ならずや。

○衣服はよく其爲人を現はす。亦よく其爲人を隱す。

○尺牘筆蹟の類亦よく個性を現はし、或は沒す、要するに之に依て人格を判斷するは危險也。

○戸障子の開閉の滑かにして快きは、家庭の平和と云ふ上に想像以外の功あるもの也。

○眞面目を洒落に取られたるは慊らず、詼謔を眞面目に解せられたるは忍び難し。

○「質屋は輕い簞笥をひよいと持ち」と云ふ狂句あり。這般の妙味を知る程の家庭ならば、貧乏亦決し

て愛ふるに足らぬものなるべし。
○騒々しき家庭に比せば靜かなる家庭、靜かなる家庭よりは賑はしき家庭。
○假りにグラムマーを以て人生を論ぜしめよ、形容感嘆の詞を弄することと澤山なるは華美なれ共飽かれ易し、想ふにこれ下也。打ち消しの詞の使ひ方如何は、よく殺活の境を變ずる事あるも、動もすれば際立つ嫌ひなきに非ず、是れ恐らく中也。尤も露はならずして案外の効果あるは副詞を巧妙に使用する途の如何に在り、「一寸」「遉がに」「いさゝか」「矢張り」等がいかに事もなげに聞ヘて而も力あるか、味はへばつきせぬものあるにはあらざる乎、是れ上也、若しそれ破格自在のレトリックに至ては上の上乗なるものなりと雖、いづれをいづれと曰ふべく、間髪を容れざるものあるを認むる也。

鰕の話

谷津直秀

△新年で鰕の話といふ譯ですが、然し突然の事でまとまつた御話をする事は出來ませんが、思ひ付く儘を申し上げて見ませう。
△新年のかざりに用ゐるのは、いせえびで、又かまくらえびとも申します。俗に紅鰕とも書きますが、一般には龍鰕といふ字を用ゐて居ります。
△又海老とも書きますが、之は鰕が長命のものであるからと云ふ譯でなく、腰が曲つて居りますから、人間の老年になぞらへて、腰が曲るまでと云ふ意味で、祝の時に用ゐるのです。昆布をよろこんぶと云つて祝儀に用ゐるのと同じ理屈だろふと思ひます。鰕を斯う云ふ意味に用ゐる例は外國にはない事であります。
△鰕や昆布を用ゐるといふ事から見ても、日本民族の祖先が海に關係したものである事の立派な證據で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あります。

△此鰕の類は四種程あつて、臺灣の錦鰕と云ふのは形が非常に大く、一尺五寸位のものを見かける事があります、亞米利加の太平洋沿岸、地中海、英愛の西南沿岸などに多く繁殖して居ります。

△亞米利加のはロブスターと云つて爪が非常に大きい、味も甘美なので珍重されて居ります。

△鰕は晝間は岩に隱れてゐて、夜出て餌を獲るので月夜などには紫黑色に光つて、非常に美しく見えます。

△逃げる時は必ずピョイと後へ跳る、之は岩の穴に直ぐ入る事が出來る爲です、跳る時の力は頗る强大なもので、吾々が食する肉は跳ねる爲に出來て居るのであります。

△鰕は泳と云ふよりは、跳る方が多いのでありますが、子供の時は必ず泳ぐ、之は其先祖が泳いだものだと云ふ明かな證據であります。

△子供の時は體は透明で恰度團扇の樣な片平な形態をして居る、もとは別種の動物と思惟して居つて、西洋では硝子蟹と稱して居つたが、今から六十二年年前英人が卵から飼つて見て初めて發見した事實であります。

△即ち鰕は變體するのであります。五月から九月頃に卵を持つて、雌鰕を紫色の何千と云ふ卵を腹につけて居ります。

△鰕は夏に脫皮します、背が破れて、其處からブヨ〳〵した柔かな體軀が出て來るので、此際は胃膓など悉く古い殼と共に拔き捨てるのであります、此時は他の魚類に喰はれるのを恐れて石の下に隱れて出て來ない。

△米國のロブスターは爪が大きいから、脫皮する時は中々困難で、拔け切れぬ場合には死んで仕舞ふ事もあります。脫皮し終ると原形よりも一時半位は大くなります。

留守宅御見舞の記

楠　男　生

十二月の中旬、T君と相携へて内ケ崎作三郎氏のお留守宅をお尋ねする。本誌を賑はして下すつた、「ゆきあたりばつたり集」も其後久しく見えず、如何なさつたのやら御消息を伺ひ旁々御留守宅の御見舞を申上げたのでした。閑静な丸山町の通りはぽかぽかと日が當つて、冬とは云へ、松の緑、草葉の黄に、陽炎でも立ちはせぬかと、遙かの方を見すかされる程の景色、都續の郊外生活には、常にかうした自然の慰が多い事と美ましく思ひました。

T君はかねてよりのおなじみ、聲聞きつけて、バタ／＼と勢よく玄關にみえたる男のお子さん二人見知らぬ僕の從ふを見てモヂ／＼してゐられるのも可愛らしい。内ケ崎御夫人幸ひ御在宅で、サア何卒此方へと丁寧に招せられて、八疊の御座敷に通れば、縁側一杯にさす日光を背に一生懸命に凧の修繕をしてゐられたのが、長男の浩一郎さん、高師附屬の一年生。お母さんの御挨拶が濟むのを待つて、一人づゝ、バタリ／＼と活潑な御辭儀をなされたあとは、お母さんの側について只もうおとなしい。「如何したんだ、今日は馬鹿におとなしいね」とT君油をかけても、お近附のうすい僕に遠慮してか、蕾の口あくまで固うして、容易に開かうとせぬ。お珍らしい方がゐらつしつたので今日はいつもになくおとなしいので御座います。平生ならそらもう手の附けやうがないので御座いますとの御言葉。八歳を頭に四人の御男子、成程お賑かな事であらうと思はれました。四番目の英四郎さんは、寫眞での外、お父さんのお顔をまだ知られぬ、御出發の後の御出生なので、そこで英四郎さんといふ名がついたといふことで御座います。

主客七人圓くなつて、蜜柑を頂戴する。お母様をまん中に、左右に二人づゝ、お互にお母様によりかゝつて、蜜柑を食べてゐられる美しさ、むつましさ、

此處を其儘寫眞にとつて、英國のお父樣に贈つたらお父樣の眼には涙が湧く事だらふ。それにしても九月以來一回の御通信もないと云ふ、學窓日夜繁忙にして故郷に暫く暇さへ持れぬのかも知れない。「あんまり御勉强が過ぎて御病氣にでもなられたのではありませんか知ら」と云へば、「いゝえ大丈夫、そんな柄ぢやありません」と一笑に附して仕舞はれたが、安からぬ寂しい想は必らず多い事だらふと思はれました。

浩ちやんは繪が御上手、御父さまの處にやるのだと云つて、端書に一沫の水彩畫、芝生の小山に遠見の吾妻屋が一つ、立木が三本、如何にも配置がよい、處々に赤いのは花らしい。何の花ですかと聞けば「只の花です」とは面白い、將來は美術家にならふといふ御志望で御座いますそうな。二男の虔ちやんやうやくお口が輕くなつて、大きくなつたら何になりますかと聞くと、「今朝床の中で餘程軍人になつてやらうかと思つたが、やめた」と云ふ御話、金滿家になる御希望で、それには巡査か電車の車掌になるが一番だといふ考、巡査は罰金をとつたり電車に只で乘れるし、車掌はカバンに一杯お金がされるからとは何處までも罪のないお話、つい吹き出さずには居られませんでした。

お話も面白くなくなつたかして、新らしく貰つた蜜柑でベースボールが始まる、次のお座敷がホームで、ワントストライキ、ツーボールでポン〳〵蜜柑の球が宙を飛ぶ、反球がたま〳〵お母樣の背中にあたつて、おゝ痛いと態と聲を出されると、一齊に手を擧げて萬歳々々。あゝ小供は家庭に於ける唯一の慰藉者である、此慰があればこそ留守の一日が短かく送られるのだとつく〴〵感じた事でした。さるにても三千里外の學窓のつれ〴〵なつかしき姿の面影に立ちはせずや。

椽先に日は陰つて松の色が黑うなつて來た、熱いてお暇をすれば、さやうなら失敬の聲がいさましい。

摘草集

▲婦人思想一般の傾向

成女高等女學校長　宮田脩

當時の婦人は自覺して居なかつたかも知れないが、中古以來我國に於ける婦人の取扱方は、餘りに高壓的であつたと思ふ。手を出せば手を抑へ、足を出せば足を抑へ、殆んど人生が當然に受くべき自由の大半は奪はれて居たと思ふ。昔は歐羅巴に於て、人道論者の口から奴隷廢止の議論が出た。而して忽ちの間に是が實行された。今は我國に於て人道の上から婦人解放の議論が出る順序ではあるまいか。若し聽るせるなら、人道の權衡にかけて婦人にも其求むるところを得させる策を講ずるのが、富に精神的文明を唱道する大國民の雅量であると思ふ。然し國開けて僅に五十有餘年、今日の處是は中々困難な問題で、氣の毒ながら容易に實行されさうもない。

けれど單に社會經濟の問題としても、最早「女大學」的の消極的な舊思想では、到底拘束する事が難かしくなつた。是は婦人自身の我儘でもなんでもなく、社會組織が新まつて時代思想が變つて來た現時代の齎らす必然の大勢であると思ふ。處が世の中には其足を新時代の床に据へながら、其頭のみは依然として舊時代の棚に置き忘れた論者が有つて、動もすれば時代の趨勢と事物の推移とを考へず、なほ綿帽子に鐵漿時代の教育法を用ひやうとし、獨り婦人自然の發達と自由とを阻害して居るのみでなく、延て社會國家の繁榮利福に障碍を與へて居た。是が爲め西洋風の建築法を用ひた女學校の數は增しても、卒業して出る女子は餘り時代に適應して居るとは云へぬ人物が尠くなかつた。極言すれば十八世紀式の良妻賢母は遺憾なく得られたかも知れないが、二十世紀式の良妻賢母は思ふに得られなかつたのではあるまいか。

此際心ある人々は頻りに時勢の要求を號んで、新教育の必要を唱へて居た者もあつたが、大聲は兎角俚耳に入らなかつた。啻に頑老者流が西洋かぶれの論、青い說とケナして反對したに止まらず、所謂青年者流の内にも附和したものがあつたものだ。然るに時勢の要求は日一日と急を告げて來て、從來は狹義な時代後れの良妻賢母說に、女子教育の目的は盡きたりとした議論の多かつたに反し、今年は其人格を發展させて積極的の人物を作るのが、女子教育の本旨であると云ふ意見が增して來た。元より盲目千人の世の中だから、まだ〳〵古い夢を結んで居るものもあるが、女性に對する眞面目な研究と社會事情の展開とは、日に月に女子教育の目的を狹い速成的の現金主義な良妻賢母主義から移して、人格養成主義、少くとも深さのある幅のある積極的の良妻賢母主義に變つて來たのは、今年に於て注目すべき一大事實であると思ふ。從つて女性に關する著述なども、餘程眞面目なものが多くなつて來た。（婦人畫報）

▲常識の缺乏

女子高等師範學校長　中川謙次郎

普通教育と云ふことは要するに常識の發達を期するものでありますに拘らず、普通教育を受けた人間が、男子も女子も常識缺乏の非難を受けます、ですから殆ど今日は普通教育の目的を半ば遂しないやうな譯になつて居ります、一體常識と云ふことは何う云ふことで

あると聞かれると、英語の所謂コンモンセンスの意味を明瞭に言ひ現はすことは出來ませぬが、正確な知識が基礎になつて居ると云ふことは、確かでありませう、然るに普通教育を受けたものに、常識が缺乏して居ると云ふのは、學校の教育が上走りをして仕舞つて、あまり課目が多い爲め、學んだものを眞個に好く消化しない、つまり確實の知識とならぬ、言ひ換へれば充分に我物にならぬと云ふやうなことが、常識の進まぬ理由でないかと思ひます、教育者の談に、學校の教員は生徒に物を信じさせるのでは可けませぬ、物を知らせるのでなければ可けませんと言はれましたが、先生の言ふことを信ぜよと云ふ遣り方は、一般に世界一部の教育者の唱へて居る教育上の缺陷であると思ひます、日本などにも信じさせれば能事了れりと云ふ教育振りが隨分あるやうに思ひます。是等も家庭并に學校の注意すべく反省すべき點であると思ひます。

▲呼吸病の注意

山本　惠三

呼吸器病に就て心得置べき二三の要項を述ませう。呼吸器病と申しても三十許りの病名がありますけれども、ありふれたものは、鼻カタル、咽喉カタル、氣管支カタル、百日咳、ヂフテリア、肺炎、肺結核(肺尖カタル)、肋膜炎の八種位のものであります。先づ普通の咳はどんなものかと申しまするに、音には大した變化がなくて、調子が高くて勢が強い。其が結核性のものとなると、凡てとは申されないが、力の弱い斷絶した小さな咳となつて居る。ヂフテリアの咳は一種特異な音で丁度犬の吠へる樣な具合であります。百日咳のものは、多數連續した咳で殆んど呼吸のみで、其合間々々に強い呼吸をするといつた樣な、特徴のある咳方であります、次に痰の色合は普通のものは、白くて粘液性或は粘液に多少の膿性を帶びて居る位な處であるのが全くの膿ばかりか或は血性となると、危險の症狀を呈して居るのであります聲の變化は大多數咽喉部乃至鼻道の疾患である爲めに、さまで大患を意味して居らんのであります。熱は扁桃腺の少し腫れた位でも、時とすると四十度位の高さに昇ることもありさうかと申して大病でも、初から微熱のことがあつて、一概にきめてしまうことは、中々むつかしいとでありますけれども、毎日の樣に微かな熱が、一定の時間頃に出てきて、咳も出ない痰も出ない、鼻にも咽喉にも變りがない、しかし何だか身體が怠氣であるといふやうな場合は、寒心すべきことがあります。次に疼痛の區別は、只咽喉の痛む位のことであれば、大した危險もありませんが、其が胸の横側で、物に刺されるやうな痛み方であるときは、肋膜炎の疑があります。但世間には肋間神經痛を、やれ肺病だの、肋膜炎だのと早合點なさる方が多い樣に思ひます。(婦女界)

▲福壽草と雪割草

▲種類　本年の福壽草は先づ出來のよい方ですが、此草花の種類はサカユリ香、秩父香、青梅香の三種で、花は段咲、菊咲等がありまして、中には純白の花も眞紅の花もあります。其内サカユリ香は少さい草で、一本七圓位秩父香も餘り多くなく、一本二圓位、青梅香は一本一圓五十錢位と云ふのが相場です、一體此の花の元は武州の青梅で右の三種は福壽草中の珍木です。

▲産地　産地は青梅が第一で、産出の多いのは西武藏の依店、本庄、深谷、安行地方で、十一月の末から十二月にかけて何十萬本と云ふ大變な數が輸送されて來て、之れが皆賣れ盡されて了ひます。其の内で安行から出て來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るのは地草と云つて莖が細く・花を澤山持ち一本一錢から四五錢位の相場です、莖が短くて太く、土際から一寸許り延びて居るのが上等の品で・莖が細長く延びるのは下等の品です、ですから福壽草許りはヅングリして居るのに限るのです。

▲素人にも出來る　私の所の七福神と名けて莖が一寸位で、花を七ツ八ツも持ますのがあります。これは素人にも譯なく出來ます。それは暮に一寸許り延びて蕾を着けたのを鉢に移し、蕾の上に一枚着て居ります澁皮を剝き取つて蕾を丸出しにし、日當りのよい溫かな室に入れて置きますと・新年には立派な盆栽となります、又七つも八つも蕾を持つたら一つゝ咲了る度に摘み取りますと、順々に花が開きます、只咲いた儘に放り出しにして置きますと、どうしても花か小さくなります、斯うして正月の役目が終つた後は、餘り葉の延びない内に鉢から引き拔き、春の間は日當りのよい、夏になると全く日陰になる所へ地植にして、油糟でもやつて置きますと、翌年の正月には又花を持ちます。

▲雪割草　此の花も新春の盆栽には結構な花で、形は福壽草に類似て居て、一名ミスミ草とも云ひます、産地は佐渡及び加賀の白山、四國邊も出る草花で、佐渡及び白山の産が最も上等の品としてあつて、四國ものはズツと品が劣ります花の色には紫に赤に白等がありま す、値段は一本一錢以上で、之れも新春の役目が終つた後は地植へにして置きますと十二月頃に芽を吹き出します、雪割草も福壽草も、素人の手に移りますと地植にしては其翌年能く出來ませんが翌々年からは立派に出來ます、これは早く花を咲かせやうと前年植木屋が溫室に入れた後ですから、木が幾分か弱つて居るので、翌々年位にならないと、元の元氣に回復しないと云ふ樣な譯です。

（時事）

▲毛髮の注意

▲落葉の頃には婦人の毛髮も夏春よりは餘程多く拔けますことはどなたにも御經驗で御座いませう。其原因は種々ありますが、むづかしい醫學上、又は生理上に關する事は措きまして、私の實驗を申しますと、夏期暑熱に腦を苦しめた結果と思はれます。それから永年多くの人の髮を當りました上から見ますと、どうも氷やラムネを暑い最中に澤山召し上つた方程澤山毛が拔ける樣で御座います

▲日本髮に結ひますと、どしても元結を用ひればなりません元結は堅く〆めますので毛髮の爲にはあまりよくありませんが、而し全然用ひないといふ譯には參りませんから少し寛加減に〆る樣に致しますと毛の切れる事が餘程尠なう御座います、此點から申しますと、日本髮よりは束髮の方が良い樣でありますが、毛先の方は日本髮は丁寧に廣げて毛に自由を保たせ、束髮の方はくる〳〵卷きますから、此點は日本髮の方が束髮に勝つて居ります、若し此兩者を加減して結ひますならば結構でありませう。

▲何でも手を入れると綺麗になることは當然の事でありますが、此髮も常に日髮に結つてゐますと成程綺麗ではありますが、毛髮の尠くなることは夥しくあります。世間に能く見ます例で、大家の奥方などは毛髮が尠くて下女などの髮の多いのを見ても判ります通りあまり、手を入れ過ぎると可ません。結ひますのは四日から長くとも七日間に一度位いと決て、洗ひますのは月に一回乃至二回が適當であります。尤も暑い時や甚しく汚れた時は此外でありますが、まづ此位が丁度可い樣であります。

（新民家庭）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事うの折々

▲英國の政局

英國は御承知の如く目下總撰擧の眞最中でありますが、今春も既に總撰擧を行つた結果、自由黨も統一黨も共に二百四十一さいふ同數の議席を得たが、多年愛蘭土自治案の成就を熱望して居る愛蘭土國民黨や、現内閣の社會主義的財政計畫（昨年四月二十九日附きを以て政府が議會に提出した豫算案によれば、第一、二千磅以上の所得に追加税を課し、第二遺産税を課し、第三、酒税烟草税を增加し、第四、土地偶然所得税二割、及び荒蕪地税等があつて、其負擔は專ら富者に重く貧者に輕く、奢侈費に重く、生活費に輕しさいふ按配で、加之、社會改良の必要上、一昨年（一九〇八）養老年金法を制定し、七十歲以上の老年貧困者に一定の年金を給與するこさになりました。）を喜ぶ勞働黨が一團さなつて政府黨さなつて居ればこそ、現内閣も僅かに議會で優勝な勢力を占めてゐるのですが、現内閣が十一月三十日を以て下院を解散し、朝野兩黨が今回又々總撰擧の煩雜を重ぬるに至りましたことは、申すまでもなく、豫算議定權の落著即ち上院に豫算案を否決し、若くは之を修正する權を認めぬこさを成文上制定すべきか否かさいふので、いはゞ上院問題が政爭の主論題であります。元來、英國は不文憲法國さ云はるゝ位凡ての法分施策は殆んど皆慣習先例に由るこさになつてゐますが、上院は否決權修正權を僅かに有つて居り乍ら、之を實際に試みたこさはなかつたのであるが、本春途に異例にも此慣習を破つて下院通過の豫算案を否決するに至つたのです。かくては統一黨員の多數を占むる上院さ自由黨さは互に相擊合する結果國政上面白からぬ影響の生じ來るべきこさは火を睹るよりも明かなこさであります。ここが、自由黨の苦心の存する處で、今回愈々上院の財政案否決並に修正の權利を奪ひ其他同一案にして三會期共下院のみを通過したものは、之を上院に廻議せずして直ちに法律さなし得るこさにしやうさいふのです　若し、自由黨の提議が首尾よく容認さるゝ曉には、やはり、上院あるも之なきさ同一の狀態、即ち一院制さなる譯で、しかも、多數黨に絕對三法權を認むるこさゝなりませう　之には底意のあるこさで、かれて反對を唱へ來つた上院の意思に關せず、多年の宿題たる愛蘭土自治を許して、該與黨の所期に報いやうさするので、しかも一事は萬事、凡ての法律が下院に於ける絕對多數黨の一存によつて左右さるゝことになる筋合であります。自由黨はかやうに上院權限問題を提起したのに、一方統一黨を見るさ該黨では、寧ろ、上院組織の改革をやらうさしてゐる。世襲貴族の世襲議員たる現狀を打破して、貴族互選制さし、且貴族以外の名士をも加へやうさするのです。然るに上院統一黨の一領袖で日露戰役當時統一黨内閣の外相たりしランスダウン卿等が提議して上院を通過した改革案は（一）財政案に關しては、上院は否決及修正の權を放棄し、（二）二會期に亙つて兩院の一致出來ぬ財政案以外の議案は、之をレフエレンダム（國民直接立法表

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

決法とも評しませうか、國民の意思判斷に訴へて法案の是非利害を定めやうとするものですが、この方法は現に瑞西の如き小國、又は米國諸州の或部分、または乃至或都市で行つてゐます。然し、小範圍のところでは、有効なものでせうが大範圍のところでは、却つて手數と經費とを要するのみで、さしたる効力がないといふのが、政論家の定評であります）によつて之を決すべしとの二點を定めました。此民意を重視するといふのが、痛く選擧民の贊同を得てゐるやうです。以上は上院改革問題の概要でありますが、次に關税問題についても兩黨其主義を異にしてゐるのです。が、これは紙數に限りある本欄の都合上、故意に解説を省きます。とにかく、この上院改革問題は英國憲政史上の一大事件であることを一言し、同時に現下進行中の總選擧の形勢は、統一黨が、自由黨に比して著しく優勢であるが、しかし例の愛蘭土國民黨や勞働黨かが自由黨と聯盟して政府黨を形造る以上は、自由黨現内閣の運命を輕々しく豫言するは頗る困難であることを再言しておきます。

▲清國婦人の活動

嘗て我國に滞在して軍事を研究された所謂蒙古王、喀拉沁王の王妃の主催に係る支那婦人會は十二月十一日を以て開會し、會員孔夫人は蓄妾制度の陋習を打破することにつき演説をなし二百餘名の出席婦人は蓄妾制度を廢止する件を資政院の決議に附し、之を實行するため請願書起草の件を議決したといふ慶音に接して、記者は清國婦人のために欣悦に堪へぬ次第であります。清國の家庭内情は、我等の同人たる先輩吉野法學士が事細かに本誌に紹介されたことがありますが、之は讀者諸姉の記臆せらるゝところでありませうが、支那は蓄妾國として世界に公認されてゐるのです。いかなる由來で、又情實でかやうになつたかは存じませぬが、この歴史的産物は慥かに支那の一大國辱と見做しても差支がありますまい。吉野兄が先年支那へ往つて居られたとき、或支那人が「君は妻帶者か」と問いたから「然うだ」と答へたら「何人あるか」と反問されたので、流石燗眼達識の吉野兄も餘りのことに吃驚されたといふ。つまり支那では妻妾は財産のやうに思はれてゐる。妻妾が何人あるかといふのは「土藏が何個あるか」と無遠慮に他人の財産調をすると同樣なものなのに、飽くまで財産崇拜の支那人は、妻妾の多いのを以て誇りとし、譽れとしてゐるので、かやうな不作法の挨拶振りもあることでありませう。然るに事の成否は如何でも、支那婦人が婦人としての天職を正當に倫理的に自覺し始めた第一慶報としてこの種の運動が起つたことを耳にしたお互は、此陋習打破の曉鐘が獨り纏足婦人に許り打たれずに、我國の婦人、殊に上中流、殊に教養ある婦人社會によつて我國にも共鳴するに至らんことを祈望して止まぬ次第であります。

▲閑院宮兩殿下の琉球御成

閑院宮載仁親王殿下には赤十字社總裁の御資格を以て、同妃殿下には愛國婦人會總裁として十二月十三日横濱解纜の軍艦満洲號に御搭乘、琉球沖繩へ御發航なりました。隨員には花房子爵、阿部伯爵夫人を始めとし夫々平生御附の方々であります。

琉球は舊幕時代に於いても我國と交通してゐたが、やはり支那の屬國か、日本の領土が其所屬曖昧で、明治維新後とても猶同樣でありました。が、明治四年の比琉球人數十名が臺灣に漂着したのを、其中三分の二許り虐殺して了まつたので、之が日清兩國の交渉となり、遂に五年九月、琉球王尙泰を封じて琉球藩主

となし琉球は我所屬と決するに至りました。明治十七年尚泰氏は華族に列し侯爵を授けられ、居を東京麹町にトし近年まで接はれたが、今は琉球の故邸に歸つて居られる。此度兩殿下が御成りといふので、島民の喜躍、さもあるべきことでありませう。皇族の此遠い島根に其御足跡を印せらるゝは、實に今回を以て嚆矢とする、皇德洽化、島民の有形無形に啓發し覺醒するに至ること期して待つべきであります。

▼教界物故の諸名士

明治四十三年は明治時代の人物名士の過去帳を編するかの如く送迎されました。殊に歳晩に接近してから、財界、學界の元老耆宿殆んど申し合はせたやうに易簀された方々が多う御座います。とりはけ教界の元勳にして明治の宗教史に赫々たる光輝を放つた人の長逝については、新らしき年紀の岸頭に立たうとするにつけ、今更過ぎし往昔を顧れば、去りし人生の面影が坐ろに偲はれます。

△デビス博士　は明治四年來朝新島襄氏と協力し同志社の創設に與られ新島氏沒後の同志社は幾多の問題に逢ひ隨分困難な局面も見ねたが、故博士の公正なる識見と卓越なる人格とは、能く其間に處することを得、同志社の今日あるは偏に故博士のためであるといはるゝ位、兩者の關係は離る可からざるものであります。今春原田同志社長と同道、エヂンバラの宣教大會、ボストン府で開かれたアメリカンボールドの百年紀念大會に出席し、米國各地に巡說して同志社基金募集に熱中されてゐましたが、遂に十一月廿七日、オベリン大學のボスウヲルス教授宅に「我生涯は我遺言也」との深大なる意義ある言葉を最後として永眠されました。行年七十四。

△ウイリアムス老監督　は十二月二日思出多い故山なる米國ヴアジニア州リツチモンド市養老院で長逝された、享年八十二歳。故監督は一千八百五十九年(安政六年)に日本傳道開始のために支那より轉任されたのであるが、實にプロテスタント教宣教師の先登第一の榮譽は當然故監督に歸して居ります。爾來、獻身力行、さ乍ら中世紀的生活を營むとはいへ、其顯密兩面の行業は、自己廣告の當世流を趁はず、往くとして其周圍の人々を風化された。されば、「聖人」と稱されたも理由あることで、其逸事美談の如きは、眞に欽仰に値するものがある。切支丹禁札の撤廢も故監督の立言に基し、かのペルリ提督渡來の碑には彼我の通譯の任に當り、詩篇の翻譯に從事し、東京築地の三一會堂や京都五條の聖約翰教會は、其質素なる生活の產み出した紀念會堂となり、病院訪問の際、貧患者に金錢を惠むにしても之を手渡しすることなく、談笑の間に人知れず、そつと蒲團の下に入れて去られたといひ、又終生獨身の人であつたといひ、去る四十一年人にも告げず、飄然として歸國されたといふが如き、比々皆故監督の高風流韻を語らぬものはありません。

△奥野昌綱翁　日本に於て最初に教師の按手禮を受けた一人として廣く其名を知られた同翁は本年米壽を迎へ「けふぞ知るよれの齢となるまでに日毎賜ひし糧の惠みを」と咏じ病餘の殘生を府下澁谷の隱宅に送られたが、十二月二日神の御招に應じて天國へ旅立たれました。翁は明治四年一友の紹介により横濱に赴き、ヘボン、ブラオン兩博士に日本語を教へ新約全書飜譯を助け、五年七月ブ博士より受洗せられ、十年按手禮を受け爾來諸處の牧會に從事されたが、翁に於いて基督教社會の感謝すべきものありとせば、それは、翁が文學的才能を以て斯界のために貢獻された一事であると思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

所感二則

安井哲

一「あゝ忘れました」

世の中が忙しくなつて來ますと、記憶せねばならぬ事が餘り多くて、いくら備忘錄に書きつけて置いても、約束帳に記して置きましても、時としますと、約束した事や、爲すべき事を忘れる事があります。一體自分の爲すべき事を忘れるといふのは、無責任な行爲で、如何なる事情があつても、其責は負はねばなりません。かく申す私自身も、近來餘り事が多くて、時と致しますと　自分の最嫌ひな此無責任の行爲を致しますので、此頃は出來る事は直に實行するといふ習慣をつけて居ます。例へは寄附金ならば直に出金して、其拂込期限まで延ばさぬ事、面會ならば成るべく速にして、數日の後に延ばさぬといふ事に致して居りますが、之れは一には記憶すべき事柄の數を減ずるのと、一には後から生ずる他の差支の爲めに違約を防ぐ唯一の方法であります。

併し注意さへすれば、一度約した事や爲すべき事は大抵は忘れぬ者で、確に記憶はして居るが、止を得ぬ妨のために實行が後れたといふ事は、別の問題であります。然るに「忘れた」といふ事を何の耻づる處なしに平氣でいふ人がありますが、之れは其相手に餘り快い感じを與へません。自分の爲すべき事を度々忘れて、「あゝ忘れました」と平氣でいふ樣な人は責任を重んせぬ人でありますが、時とすると爲したくない事を、爲しませうと約束して、故さらに爲さずに居り、其時期が來ると「あゝ忘れました」と答へる樣な人が、商人の中などに時々見受けられま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。之れは不誠實な人で、不注意で忘れる人よりも餘程罪の重い人といはねばなりません。兒童ならば面白い遊びに心を奪はれて、親の使を忘れてしまつたといふ事もありませうが、成人が爲すべき仕事を度々忘れて「あゝ再忘れた」では世の中が渡れません。如何に年が一つ増したとて、新年早々物忘れは餘り感心致しませんから、お互に本年は爲すべき事を片端から片付けてゆきたいものであります。

二「母様が入れて下すつたの」

母親として吾子を愛せぬ者は御座いませんが、中には家事繁忙の爲めに、子供に充分の注意が行屆かず、止を得ず其世話を等閑にする者と、又萬事召使任せとして、母親は餘り吾子の世話をせぬ者とあります。私は近頃子供のお辨當に就いて面白い觀察を致しましたが、子供の樂しみにして居るお辨當を全く女中任せにして、副食物の種類や分量などに少しも注意を拂はぬ母親を見出す事があります。勿論中には質素の意味で、故らに子供に粗食をさせる方もありませうが、私は此主義は賛成は出來ません。衣服は木綿でよろしいが、食物は充分注意して衛生に適つた物を與へたいのであります。

私の實驗しました一人の兒童は、お辨當を樂しみにして、食事の時間が來ますと大喜びで、今日は何が入つてゐるであらうかと蓋を取ると玉子やら「おぼろ」やら色取美くしく排列されてあります。につこり笑つて、「母樣がいれて下すつたの」とさも嬉しさうに箸を取り、大きなお辨當に入つてゐる食物を、すつかり食べてしまひます。此子供には多くの兄弟がありますが、母樣自身手を下して、各兒にお辨當をこしらへて與へるさうであります。「母樣が入れて下すつたの」といふ子供の心には、母の慈愛が深く意識され、にこ／＼した顔には、實に無限の感謝が表はれて居ます。少しの注意でかくも子供は喜ぶ者を、母の不精から女中任せに何事も省みぬ母親の無情は、兒童に代つて私の恨めしく感ずる所であります。

贈答の心得

海老名みや

年の暮から新年にかけてはクリスマスお歳暮お年玉と物の贈答に随分心を遣ひまして、折角樂しかるべき時期をあゝうるさい厄介な時だと、思ふ樣になるのは殘念なことだと思ひます。斯樣な五月蠅いことはすつかりお廢しにして、奇麗薩張、遣もせず、貰ひもせずとして仕舞つたが、よいではないかとおつしやる方もありますが、それも餘りに殺風景、と云つて、それをあまり苦勞にして、ほんのお義理一偏のやりとりは、尚更面白くなし。どうか折角のこの風習を最も有益に、又最も樂しきものとして實行される樣にいたし度ものです。昔京なる良人より妻の許に文して、何々を送る何々を送ると、細にしるし、最後に『あらばかくこそやらまほしけれ』と書きたりければ妻の返事に『志あるかたよりの僞は誰がまことよりうれしかりけり』としるして送りたり

との話を、私の十歳許りの時聞まして、面白い話だと子供心に氣持よく感じました。其時初めて其志といふ意味を合點したと思ひます。志、實に此志こそ此贈答の物品に必ず添ふべきものだと思ひます。互に親しく相交る人の間に、何か物を送つて、わが其方の事を心にかけて居ることをお知らせしたいと思ひ、又何か相當のものを見ては、あゝあの方に之れを上げたらお喜びになるだらうと思ふは自然の情で、實に美はしいことだと思ひます。然れども此限りない情を顯すに、限りある財を以てしなければなりませぬ故に、それは決して之れ許かりのものと思はずに所謂志で、たとへば足袋一足でも、心をこめて贈り、又其志を厚く受けるといふことは、實に美はしいことだと思ひます。願はくは義理一偏の贈答は出來る丈省いて、志ある贈答は樂しみの一つとして致し度と思ひます。

數百通の年始狀を一々眼を通して見ますと、おゝ彼の方からと思ふのが何十あるか知れませぬ。而か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も其中に唯一言でも何か懐かしい語が見えますと、幾年か打忘れて居たのに、まあかうであつたかとしみ／＼嬉しく、忽ち舊情をあたゝめることが出來ます、私共は筆不精の方で、年始狀も三本に對する一本位の割しか出しませぬが、これは誠によろしくないと思ひます。せめては年に一回端書で無事の知らせ合ひ位ゐいたしまして、二十年三十年の舊情をあたゝめるのみならず、永久の友として年一年溫かみを加へ度と思ひます。これもうるさい面倒くさい仕事と思はず、この一ひらの端書、よく我思ひを齎らす貴き使と思ひまして樂しく認め度と思ひます。

雪路の灯

楠男生

冬になると教會の夜の集會を想ひ出す。集會と云つても、八疊の座敷に寒き火鉢一つ置いて、三分心の洋燈は讃美歌を見るにも困難な程、それ程貧乏な教會であつたけれども、胸の裡に靈の火は熾に燃えてゐた。不斷の靈火を點じた其人の面影を忘れる事は出來ない。東北の山國なれば降りしきる雪に、地は一面に埋りて、何れを道とも分ち難く、風が強いので、まともに顏を向け得ぬ夜が多かつた、風がない夜でも、濃い霧が世を罩めて一間先に立つ人の影が、茫と只夢の樣にかすんで、冷氣は天地の心を凍らせねばやまぬ夜が續くのが常だつた。それでも如何な日でも「おばあさん」の姿が集會の度毎に見えぬ時はなかつた。「おばあさん」の家は教會のつひ近處だつたけれども、眼が不自由だつたから、杖と提灯とを離されなかつた。雪や風の激しい夜は、「おばあさん」と僕と只二人で、祈禱會を終つた事も珍らしくなかつた。おばあさんは僕がまだ世に生れぬ以前からの基督教信者で、今日迄の生涯には、信仰の迫害に打たれ擲かれ、何邊か血涙を飲まれたか知れない。ぼろ／＼になつたあの聖書は其夫の爲めに便所にまで棄てられた事のあつたものだといふ。されば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一寸した感話にも活きた敎訓が籠つて、吾々の胸にひし〳〵と應じたのであつた。

二人して日曜の夜を終つてのかへるさ、今思つても有難さが身にしみる、「おばあさん」を其門口まで送つて、吾家へと引き返した時、とある角にてふりむけば、「おばあさん」は提灯を此方に高くむけて立つて居られる。さよならと云ふと、提灯がゆらく。角を曲つて五歩六歩。あゝ惡かつた、おばあさんは目が見えぬ、もや立ち罩めた冬の夜に、一丁を隔てた吾姿の角を曲つたとも知られまい。若しやまだ立つては居られぬかと、急いで角迄立ちかへると、あゝ「おばあさん」の燈は濃霧の中にぼんやりと夢のやうにみえるではないか。おばあさん、有難う、此處から曲りますと叫べは、灯は又してもゆらいで消ねた。

美しき人の情は、拾ひ足に雪路を辿る僕の胸に、限りなき温かさを移して、三年をすぎた今日でも、忘れ得ざる敎訓を遺して居る。

教會へ不參がちの會員を、草鞋がけて訪問して、信仰の火を燃されたのも此の「おばあさん」であつた。年老いたる身の何の働きをなし得ねばとて、せめては世の人に尊き敎の一句なりとも傳へやうと、路次口の窓下に踞して、暇ある毎に、聖書を高聲に讀まれたるもこの「おばあさん」であつた。目の不自由な七十の「おばあさん」を思ひ起すにつけ、下根信薄うして徒らに懺悔の多い吾身を歎かずにはおられない、年改まると共に一意精進して「おばあさん」の情に酬いたいものである。

元日や此心にて世にゐたし　閑叟

身ひさつや田螺の蓋も明の春　一草

編輯だより

○新玉の年の始の御喜びめでたく申し上げます。新春の元頭に立つて、讀者諸姉も嘸御英氣に滿ちておゐでの事と御察し申します、本誌もおかげ樣で年と共に生長致し、あんよが上手のたこ〳〵歩みの頃もやうやく過ぎて、危げながらもかつこを穿いて外出が出來る程になりました。之といふも大方の御同情の致す處、這へば立て、立てば歩めのお慈しみなる事と信じ、深く御禮を申します。

○新年の御慶は申し上げますれど、只今筆とりつゝあるは十二月二十一日、さ程まだおし迫つた感も致さず、道行く人の足音もさして忙しげに刻れぬ頃で御座いますから、御慶の御辭も切實の感情が伴はない次第で御座います。之と云ふも、是非一日なりとも早く作り上げて、讀者諸姉の御愛顧に背くまいとの編輯子の覺悟で、正月號は例になく早く出來て諸姉の御手許に差上ける事が出來たのであります。

○本號から版も改まり、體裁も變りましたので、編輯子のまごつき樣は一通りで御座いませんでした。字數の計算やら、原稿の整理などそれに〆切日を繰上げましたので隨分苦心致しましたけれども、幸ひ同文舘の石川武美樣が、何呉れと御注意と援助とを與へて下さいましたので、どうやらかうやら纒まりがつきましたのは、誠に仕合で御座いました。

○表紙の體裁について一寸御斷り申して置かなければならぬ事は、先號で發表致して置きました通り、有馬畫伯がいろ〳〵御苦心の末、立派なものを案じて下さいましたのですが、之を版に致しますと、如何にも原畫の通りに參りませず、訂正致せば致すほど原畫から遠かつて仕舞つて、原畫の妙を現はす事が困難となりました、有田畫伯御在京の中なら何とか他の工夫もあつたので御座いませうが、遠く中國に旅立れた後なので、其上時日が切迫して、とても訂正を願ふ時がありませんので、遺憾ながら其畫を捨てゝ、現在の體裁と致した次第であります。有田伯書には誠に濟まぬ事ではありますが、又やむを得ぬ次第であります。新女界の三字は現今書法の大家大口鯛二先生の筆で、之も石川さんの御盡力で出來たのであります。

○偖て之れから内容の事でありますが、編輯子の新春第一の喜びとして讀者諸姉に御報告致さねばなら

ぬ事は、文壇の撲望を空しくして粕谷村に田園生活を送つて居られる徳富健次郎先生が、吾れ等の志を容れて、時々の御所感を本誌上に發表して下さる事になりました。德富先生については編輯子から何も申上げずとも讀者諸姉のよく御存じの事だと思ひます。前頁で御覽の通り來月號から御執筆下さる筈で御座いますから、本誌は一段の光彩を加へる事と信じて誠に喜びに堪へない次第で御座います。

○每月編輯〆切には空しく前橋の空を眺めてつれなき人よと怨んで居りましたが、今度こそ前橋よりの封書、取る手遲しと開封すれば、和歌十首例によりて心ゆく妙なる調、榛名赤城の麓の朝は、木枯に寒くとも、尙此の十首を得給ふ君がオこそ羨ましき限で御座います。それを御用に相立ち候はゞ誌隅になどゝのお仰せ、かしこまつて候よ。

○久しく御病氣であつた一色醒川氏は去月六日遂に御永眠なされたそうで御座います。氏は本誌上にも度々寄稿された方で、本號にのつて居ります涓滴錄は十一月廿三日の日附でまゐつて居りますから、多分氏の絕筆だらふと思ひます、基督敎界に於ける詩人として「頌榮」といふ詩集を出された前途有望な方でありましたが誠に惜しい事を致しました。●●●

○諸姉の寄稿を歡迎致します、原稿は總て東京市牛込區喜久井町廿二番地大塚尙宛に御送を願ひます。
●●●●●●●●●●

本誌定價（一部金拾錢（郵稅ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵稅ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅ナシ）

外國行定價（壹部金拾四錢（郵稅ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵稅ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵稅ナシ）

行 廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	內表紙拾二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候
●郵劵代用は一割增の計算にて御送附被下度候
御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候。但手數料金壹錢御加へ被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區林町四十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年十二月二十四日印刷
明治四十四年一月一日發行

東京市小石川區林町四十三番地
發行兼編輯人　海老名彈正
東京市小石川區小日向臺町一ノ二六
印刷人　相原一郎介
東京府下豊島郡巢鴨村大字巢鴨六百六十一番地
發行所　新人社
東京市赤坂區田町五丁目十一番地
印刷所　齋藤活版所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本輸入品に限り包裝紙に斜に「**アイボリー石鹸**」と記入し一見模造惡質石鹸と判別に容易ならしむ御購求の節「**アイボリー石鹸**」に御注意を乞ふ

移轉廣告

今般都合により左記に移轉致候に付き一切の要事は爾今同所宛御願申上候

明治四十四年一月

東京市小石川區林町四十三番地

新人社事務所

正誤

本誌前號（十一卷十二號）掲載丸善商店**日本之植物界**廣告中**正價金六錢**とあるは、**正價金六圓**の誤りに付茲に訂正す

新人社廣告部

謹奉賀新年

編輯局同人

主幹 海老名彈正

主筆 安井哲子

海老名みや子

元良よね子

有田四郎

大塚尙

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最も貴重なる智識を最も單純に意得し得るは本會の有する最大特色也

女子手藝講義錄

普通科
高等科
一ヶ年終了

手藝の素養なき婦人は文明の婦人たる資格を有せざる人なり

少額の費を以て家庭に最も有効なる手藝の最新智識を完全に修得せしむる本會の講義録也講師は斯道の大家四十名世界の技術と最新の流行と最新の考案を最新式の説明法を以て簡易に講述す

共立女子職業學校
櫻友會内手藝普及會編

無料進呈　入會規程　内容見本
圖解入（每號石版彩色木版數十個入）
質疑　會員の質問は最も丁寧に應答を示す

會員募集

社交上精神上家政上の成効を希望する婦女子は速に入會せよ

會費

科	期間	金額
普通科	一ヶ月	金參拾錢
	半ヶ年	金壹圓七拾錢
	壹ヶ年	金參圓貳拾四錢
高等科	壹ヶ月	金參拾五錢
	半ヶ年	金壹圓九拾九錢
	貳ヶ年	金參圓七拾八錢

入會申込所
東京日本橋　大倉書店

羽仁もと子編輯

毎月一回

一日發行

婦人之友

定價
一冊金拾貮錢
半年六十五錢
一年壹圓廿錢
（郵税共）

迎年準備號

便利なる食器戸棚（口繪）…………

正しき生活の兩面…………羽仁もと子
一、謙りて祈ること
二、自信を以て人の前に輝け

年末のすゝめ…………同
一、家計豫算と家計簿と主婦日記と
二、子供のために何をなすべき乎
三、樂しき衣食住
四、家人相互の了解
五、下婦の教育のために
六、一日一事を勉むること
七、餘裕を以て

迎年準備日課表、同豫算表…………

今年に於ける我家（課題）…………
▲樂しき革命の年
▲初めて家庭の人さなる
▲改めたる事、改めたき事
▲老母八十の賀莚
▲下婢に就ての恐ろしき經驗
▲さまゞゝの打擊
▲多病の夫
▲天の母親に與へ給ふ恩惠
▲多事なりし年
▲眞の獨立を敎へらる
▲二人の子の母より
▲家政改革の決心
▲妻の大患
▲樂しかりし年
▲健康なりし年
▲長き逆境さ戰ひつゝ
▲敎師をやめて專心家事に
▲わが缺點を知りたる年

子供への贈物（人形のきもの縫ひ方）…………

新年料理…………

年末の感…………

▲四十四年一月號より第四巻に入る。
▲新に購讀を始むる好機會あり。

發行所　東京小石川雜司ヶ谷町　振替東京壹壹六〇〇番　婦人之友社

壹號三版出來　各號全部取揃

人道講話

第十二號一月一日發行

◎修養に就て　村上專精

一、修養の意義……第一號

二、修養の必要なる所以

三、修養の必要なる原理—儒教に就て……第二號

四、同、佛教に就て

五、修養の分類……第三號

1、身體に關する修養

2、技藝に關する修養

3、智識に關する修養

4、情操に關する修養

5、意志に關する修養

6、最終理想の修養

新年特號

文學博士村上先生述

人の運命

（第十二號）

六、教育と修養との關係……第四號

七、道德と修養との關係

八、宗教と修養との關係

九、修養の目的……第五號

1、目的とは何ぞや

2、教育上より見たる修養の目的

3、倫理上より見たる修養の目的

4、宗教上より見たる修養の目的

5、教育倫理及宗教最終の歸着點

十、修養の方法（一）……第六號

1、修養に志ある者は先づ其友を選べ

2、修養に志ある者は惡友を善用せよ

3、修養に志ある者は逆境を順用せよ

十一、修養の方法（二）……第七號

4、修養に志ある者は順境に注意せよ

5、修養に志ある者は心の惡魔と戰へ

十二、修養の方法（三）……第八號

6、修養に志ある者は今日に注意せよ

7、修養に志ある者は多年一日なれ

十三、修養の方法（四）……第九號

8、修養に志ある者は規律的生活なれ

9、修養に志ある者は先輩の行跡に倣へ

十四、修養の方法（五）……第十號

10、修養に志ある者は大膽と共に小心なれ

十五、修養の方法（六）……第十一號

11、修養に志ある者は飲食物の注意に怠る勿れ

12、修養に志ある者は眞正の宗教に依れ

▲感話▼

父に別れし時の感（村上專精）……第二號

初めて松本君の意を解す

變れば變るものぞかし

猫に對する感……第三號

聖德太子の肖像

釋尊降誕會に就て……第四號

釋尊降誕會の時に就て……第五號

▲雜錄▼

先賢古德の面影（岩上行坡）……六號已下

其他趣味多き記事滿載……各號

附錄……女誡講義……二號已下

○本會は誰れにも入會を許す○本會々員には毎月本誌を無代にて配頒す○會費一年金六拾錢入會の際納附のこと

見本　金六錢但し五厘切手に限る

發行所　東京小石川區丸山町　振替東京二〇三二番　人道講話會

院長診察、月、火、木、金、午前入院、診後應需、
松田、林、峰間三副長ハ目下當院ニ在勤、
電本 八八八番（病院用）
八九八番（私宅用）

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱、從停車場半里、
電話 チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

明治四十四年一月一日發行第參卷第壹號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN